

島根県産水生甲虫類の分布と生態*

林 成 多

ホシザキグリーン財団, 〒691-0076 島根県出雲市園町沖の島 1659-5

Distributional Records and Ecological Notes on Aquatic Coleoptera of Shimane Prefecture

Masakazu HAYASHI

Hoshizaki Green Foundation, Okinoshima 1659-5, Sono, Izumo,
Shimane Pref., 691-0076 Japan

Abstract A list of aquatic Coleoptera of Shimane Prefecture was given based on my study and references; the list includes 141 species in 17 families. Twenty-two species were firstly recorded from the prefecture, as follows: *Satoni kurosawai*, *Ochthebius inermis*, *Ochthebius hasegawai*, *Ochthebius japonicus*, *Odeles inornata*, *Odeles wilsoni*, *Sacodes minima*, *Hydrocyphon satoi*, *Prinocyphon ovalis*, *Cyphon ohbayashii*, *Cyphon japonicola*, *Cyphon sasagawai*, *Cyphon fuscomarginatus*, *Cyphon nipponicus*, *Cyphon consobrinus*, *Mataeopsephus maculatus*, *Nipponeubria yoshitomii*, *Macroebria similes*, *Leptelmis parallela*, *Optioservus hagai*, *Optioservus* sp., and *Plateumaris akiensis*. Among them, *Optioservus hagai* (Elmidae) was firstly found from Honshu, main island of Japan and larvae of *Nipponeubria yoshitomii* (Psephenidae) was firstly found from Chugoku District, western Japan. Larvae of *Macroebria similes* (Psephenidae) were firstly discovered from small marsh in Shakunouchi Park, Un'n City.

Key words : aquatic beetle, Elmidae, Hydraenidae, Psephenidae, Scirtidae, Shimane Prefecture

キーワード : 水生甲虫, ヒメドロムシ科, ダルマガムシ科, ヒラタドロムシ科, マルハナノミ科, 島根県

はじめに

島根県における水生甲虫類の分布は, 近年, 尾原 (2003), 島田ほか (2005), 川野 (2005), 川野ほか (2006) などによって報告され, 止水性種を中心に解明されつつある. とりわけゲンゴロウ類

については, すぐれた図鑑 (森・北山, 2002) が出版され, 小型種を含め同定が容易になったことが調査の進んだ要因と考えられる. また, ため池や休耕田ではコガシラミズムシ科やガムシ科, ホソガムシ科などの止水性種もゲンゴロウ科と一緒に採集されることから, その報告例も比較的多い.

筆者はこの数年, 河川など流水域に生息する水

* ホシザキグリーン財団研究業績 第 51 号

生甲虫類の調査を行っており、島根県東部および隠岐に生息するヒメドロムシ科・ドロムシ科について報告した（林・島田，2006）．これまで島根県内では、河川調査の際に得られた甲虫類の記録は複数あるものの、その同定の精度については疑問の残るものも少なくない．これは、流水性甲虫類の分類や同定に関する知識が、他の流水性昆虫（カゲロウ・カワゲラ・トビケラ等）に比べてあまり普及されていないためと考えられる．分類学的に未解明な部分もあり、逆に言えば多くの新発見の機会が残されていることを意味している．とりわけ島根県や山陰は、国内の他地域に比べてあまり調査・研究の行われていない地域であり、その解明が期待される．

本報告では、筆者がこれまでに島根県内で確認した水生甲虫類（止水・流水性種）について、未発表のデータを中心に記録する．とりわけ、ダルマガムシ科やマルハナノミ科、ヒラタドロムシ科は、島根県ではこれまでほとんど記録のない分類群である．また、ヒメドロムシ科については3種を新たに県内から発見したほか、多くの分布記録を追加することができた．本論文の末尾には、これまで島根県内から報告されている水生甲虫類の仮目録を付した．いくつかの疑問種も含まれるが、今後の調査の参考になれば幸いである．

採集方法

止水域では、主としてD型フレームのメッシュ1mmのネットを用いてすくい採りをしたほか、採集時に水面に浮き上がる個体をひろい上げた．

流水域では、主としてD型フレームのメッシュ1mmのネットを用い、河床の礫や水辺の根際を攪拌することによって流下する個体を採集した．また、川底の礫や流木をひろい上げ、その表面にいる個体を採集した．源流部では細流や湿った地表面にある落ち葉をひろい上げ、その表面に付着する個体を探した．さらに滝など岩盤に滴る流れからも採集を行った．

このほか灯火採集で得られた標本については「LT」、マレーゼトラップは「MT」、フライト・インターセプション・トラップ（丸山式FIT：丸山，2006）は「FIT」と表示した．

採集した水生甲虫は、基本的に成虫は乾燥標本、幼虫は75%アルコールの液浸標本とした（一部は乾燥標本）．ほとんどの標本はホシザキ野生生物研究所に保管されている．

確認された水生甲虫

本報告において、島根県から記録する水生甲虫類は3亜目15科102種である．また、県内から初めて記録された種は5科22種である（幼虫のみの確認も含む）．以下、分類群ごとに、各種の採集データ（確認個体数、地点、日付）を日付順に記述する．また、図1にいくつかの種の標本写真を、図2から17に生態写真を掲載した．

オサムシ亜目 Adephaga

コガシラミズムシ科 Haliplidae

島根県内には6種が分布する．成虫・幼虫共に止水域に生息する．

コガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* (Sharp)

県内ではもっとも普通にみられる種である．ため池や休耕田、堀上水路などに生息する．

1ex., 出雲市唐川町唐川, 30.X.2005. 6exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 14exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

クビボソコガシラミズムシ

Haliphus japonicus Sharp

前種に比べてやや少ない種である．ため池に生息するが、斐伊川下流での灯火採集でも得られた．

1ex., 斐伊川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 27.VII.2006, LT. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 14.V.2006. 13exs., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006. 2exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

クロホシコガシラミズムシ

Haliphus basinotatus latiusculus Nakane

中国地方では各地に分布し（秋山・坂本，2000），隠岐島後でも記録がある（島田ほか，2005）．しかし、島根県東部ではこれまで確認されていない．本種はヒメコガシラミズムシに似ているが、上翅基部の黒斑は明瞭であることに区別できる（中根，1985）．

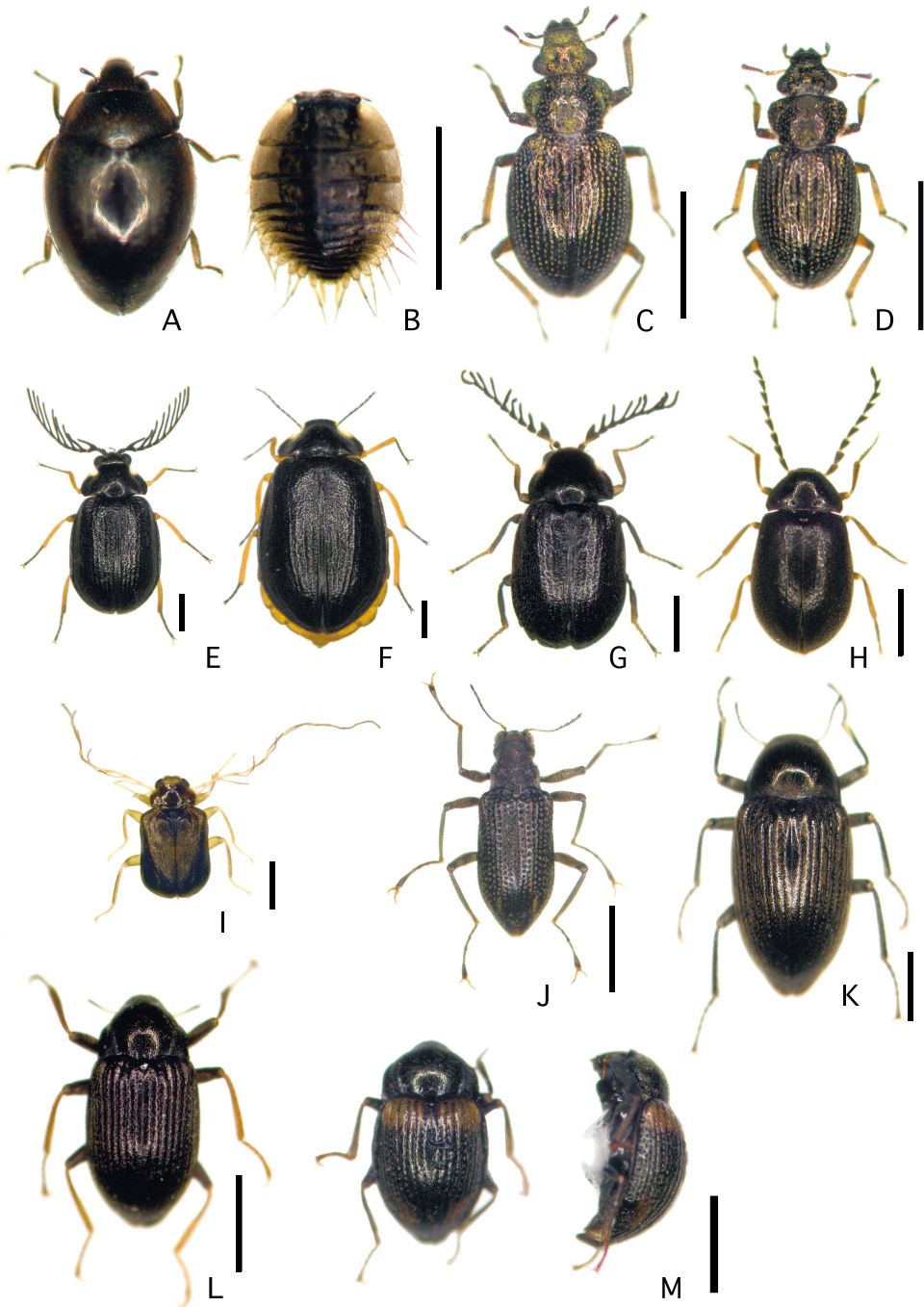


図1 島根県産水生甲虫標本写真

A, クロサワツブミズムシ成虫 (鰐淵寺); B, クロサワツブミズムシ幼虫 (鰐淵寺); C, ハセガワセスジダルマガムシ (船通山); D, ホンシュウセスジダルマガムシ (三刀屋栗谷); E, マルヒラタドロムシ♂ (尺の内); F マルヒラタドロムシ♀ (尺の内); G, クシヒゲマルヒラタドロムシ♂ (尺の内); H, チビヒゲナガハナノミ (唐川); I, マスダチビヒラタドロムシ (尺の内); J, ホソヨコミゾドロムシ (斐伊川); K, クロサワドロムシ (船通山); L, スネアカヒメドロムシ近似種 (吾妻山); M, ハガマルヒメドロムシ (金城). スケールはすべて1mm.

1ex., 隠岐の島町南谷, 9.VIII.2005, LT.

ヒメコガシラミズムシ *Haliphus ovalis* Sharp

ため池に生息するが、コガシラミズムシに比べて少ない。上翅基部に不明瞭な黒斑がある個体がある。

3exs., 隠岐の島町油井ノ池, 8.VIII.2005. 5 exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

キイロコガシラミズムシ *Haliphus eximius* Clark

ため池に生息するが、コガシラミズムシに比べて少ない。

2exs., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006. 2 exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 24 exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

コツブゲンゴロウ科 Noteridae

島根県内には以下の1種が生息する。成虫・幼虫共に止水域に生息する。

コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp

普通種である。植生があれば、たいていの止水域で確認することができる。

1ex., 出雲市島村町斐伊川河口, 25.IV.2006. 1 ex., 出雲市小境町本性寺, 14.V.2006. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006. 1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006.

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

島根県からは35種の記録がある。成虫・幼虫共に水生。ほとんどの種はため池や水田などの止水域に生息するが、河川などの流水や地下水に生息する種がいる。

キボシケシゲンゴロウ

Nipponhydrus flavomaculatus (Kamiya)

県内では少ない。丘陵地や山地の沢や溪流に生息する流水性種である。

1ex., 松江市島根町別所 澄水川（浄水場付近）, 30.IX.2006.

ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus* Sharp

普通種。ため池や休耕田などに生息する止水性

種。近縁種のヒメケシゲンゴロウも同じような環境に生息しているが、比較的少ない種である（川野, 2005）。

2exs., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006. 1 ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 8exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

マルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp

ため池などの止水域に生息する種で、しまねRDBで情報不足DDに指定されている（島根県, 2004）。

4exs., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006. 3 exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006.

コマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus acuminatus Motschulsky

ため池などの止水域に生息する種で、しまねRDBで準絶滅危惧NTに指定されている（島根県, 2004）。

1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 29.VII.2006, LT.

チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus* (Sharp)

普通種。ため池や水田などの止水域のほか、小規模な水たまりにも生息する。灯火にもよく飛来する。

3exs., 横田町大馬木 大馬木川, 9.VIII.2004. 1 ex., 出雲市島村町斐伊川河口, 25.IV.2006. 1 ex., 松江市島根町別所干瀧橋 澄水川, 19.VI.2006, LT. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 27.VII.2006, LT. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006.

マルチビゲンゴロウ *Clypeodytes frontalis* (Sharp)

ため池などに生息する種である。池の縁の浅い場所に群棲していることがある。

3exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006. 1 ex., 出雲市小境町本性寺, 3.V.2006. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006. 5exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006.

ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp

県内では主にため池に生息するが、多い種では

ない。近縁種のニセルイスツゲンゴロウは県内では未発見である。

2exs., 出雲市小境町本性寺, 10. IX. 2006. 1 ex., 松江市大垣町布川, 30. IX. 2006.

ホソセスジゲンゴロウ

Copelatus weymarni Balfour-Browne

河川敷の水たまりに生息する。斐伊川下流域では次種のカンムリセスジゲンゴロウの方が多くである。

1♂, 出雲市島村町斐伊川河口右岸, 25. IV. 2006.

カンムリセスジゲンゴロウ

Copelatus kammuriensis Tamu et Tsukamoto

河川敷の水たまりに生息する。江の川や斐伊川での記録がある(秋山・坂本, 2000; 林, 2005)。

3exs., 出雲市島村町島村 斐伊川, 21. II. 2006.

モンキマメゲンゴロウ

Platambus pictipennis (Sharp)

河川の上・中流域を中心に生息する流水性種である。近縁種のキベリマメゲンゴロウは県内での記録は数例しかない(淀江ほか, 1998; 山田, 2003)。

1ex., 出雲市島村町島村, 15. VI. 2005.

クロズマメゲンゴロウ *Agabus conspicuus* Sharp

普通種。ため池や休耕田などに生息する止水性種である。

2exs., 出雲市唐川町唐川, 15. V. 2005. 2exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 13. V. 2006. 1 ex., 出雲市小境町本性寺, 10. IX. 2006.

マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp

普通種。ため池や休耕田などに生息する止水性種である。

2exs., 出雲市唐川町唐川, 30. X. 2005. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 14. V. 2006. 3exs., 出雲市小境町本性寺, 10. IX. 2006.

キベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* Sharp

ため池や休耕田などに生息する止水性種。比較

的, 多い種である。

1ex., 出雲市唐川町唐川, 15. V. 2005. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9. IX. 2006.

ハイイロゲンゴロウ *Eretes sticticus* (Linnaeus)

本種は水生植物を欠く池を好む傾向があり, ため池で他種のゲンゴロウ類と一緒に得られることは少ない。

1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9. IX. 2006.

コシマゲンゴロウ

Hydaticus grammicus (Germer)

普通種。ため池や休耕田などに生息する止水性種である。

2exs., 西郷町男池, 6. VIII. 2004, LT. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9. IX. 2006.

ウスイロシマゲンゴロウ

Hydaticus rhantoides Sharp

ため池や休耕田などに生息する止水性種。

1ex., 出雲市小境町本性寺, 10. IX. 2006.

クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aube

ゲンゴロウ属の中ではもっとも多い種。水生植物の豊富なため池や休耕田などに生息する。

1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11. IX. 2006.

ミズスマシ科 Gyrinidae

島根県内では, 止水性4種と流水性2種が生息している。成虫は水面を旋回しながら遊泳し, 潜水もできる。幼虫は水中に生息する。

オオミズスマシ *Dineutus orientalis* (Modeer)

普通種。ため池に多い。

1ex., 西郷町男池, 6. VIII. 2004, LT.

ミズスマシ *Gyrinus japonicus* Sharp

主にため池に生息する止水性種であるが, 小規模な河川に生息することもある。

3exs., 出雲市小境町 小境川上流, 3. XI. 2005. 1ex., 松江市島根町別所 澄水川(浄水場付近), 30. IX. 2006.

オナギズスマシ

Orectochilus regimbarti regimbarti Sharp

小規模な河川に生息する流水性種である。灯火にも飛来する。

2exs., 五箇村郡川ダム, 7.VIII.2004, LT. 5 exs., 出雲市猪目町猪目 猪目川, 2.IX.2005.

ツブミズムシ亜目 *Myxophaga*

ツブミズムシ科 *Torridincolidae*

日本産唯一のツブミズムシ亜目の科であり、国内ではクロサワツブミズムシ 1 種のみが記録されている。成虫・幼虫ともに水生である。島根県ではこれまで記録がなかったが、日当たりが良く、常に水の滴る岩盤を調査することにより確認することができた。

クロサワツブミズムシ

Satonius kurosawai (M. Sato) 【島根県初記録】

(図 1A, B)

島根県内の 3 カ所で生息を確認した。ふるさと尺の内公園では、花崗岩の岩の上にポンプで汲み上げた水が常に流れており、本種はその岩の壁面に生息している。県外では、大山山麓の数カ所でも生息を確認した(林・門脇, 2007)。

3exs., 出雲市別所町鰐淵寺, 21.V.2006. 12 exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 17.VI.2006. 14exs., 出雲市河下町河下, 18.VI.2006. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 8.VII.2006. 3exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 5.VIII.2006. 5exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 26.VIII.2006. 4exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 6.IX.2006.

カブトムシ亜目 *Polyphaga*

ガムシ科 *Hydrophilidae*

水生種と陸生種がいる。止水性種については、川野(2005)や川野ほか(2006)によって、多くの種が記録されている。流水性種については、さらにいくつかの種が発見される可能性が高い。

マルガムシ *Hydrocassis lacustris* (Sharp)

溪流の淀みにたまった落ち葉の中にあることが多い。県内での記録は少なく、川野(2005)の報告がある。

1ex., 奥出雲町船通山登山口 斐伊川, 28.XI.2005. 1ex., 飯南町大万木山門坂, 15.V.2006. 2 exs., 奥出雲町船通山登山口 赤川, 8.IX.2006. 2 exs., 奥出雲町吾妻山登山道 大馬木川源流 (alt. 840m), 26.IX.2006. 5exs., 松江市島根町別所 澄水川 (浄水場付近), 30.IX.2006. 3exs., 飯南町大万木山位出坂, 3.X.2006. 2exs., 飯南町大万木山門坂, 3.X.2006.

ツヤヒラタガムシ

Agraphydrus narusei (M. Sato)

溪流に生息する小型のガムシである。県内では島根半島と隠岐島からの記録がある(林, 2006a; 林ほか, 2006)。

1ex., 飯南町大万木山門坂, 4.V.2006. 1ex., 出雲市別所町鰐淵寺 鰐淵寺川, 21.V.2006.

コモンシジミガムシ *Laccobius oscillans* Sharp

県内に生息するシジミガムシ属の中ではもっとも多い種で、岩盤面の浸み出しや上流域の河川、海岸の水たまりなど多様な環境に生息している。

2exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 5.VIII.2006. 2exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 26.VIII.2006. 3exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 6.IX.2006.

ヒメシジミガムシ *Laccobius fragilis* Nakane

斐伊川の下流域では多い種である。特に灯火には非常に多くの個体が飛来することがある。

2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 20.VII.2006. 18exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006, LT. 2exs., 斐川町阿宮宮尾 斐伊川, 16.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 14.X.2006.

ルイスヒラタガムシ

Helochares pallens (Macleay)

島根県では記録の少ない種である。今回の調査では、ため池で採集された。

1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006.

スジヒラタガムシ *Helochares nipponicus* Hebauer

県内でもっとも普通にみられる止水性ガムシの一つである。

4exs., 出雲市唐川町唐川, 15.V.2005. 1ex., 出雲市唐川町唐川, 30.X.2005. 2exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 26.VIII.2006. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 6.IX.2006. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006. 1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 2exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

キイロヒラタガムシ *Enochrus japonicus* (Sharp)

県内でもっとも普通にみられる止水性ガムシの一つである。

1ex., 平田市島村町斐伊川河口, 10.IV.2004. 1ex., 雲南市加茂町下神原 赤川, 1.VIII.2005, LT. 2exs., 出雲市島村町斐伊川河口, 25.IV.2006. 5exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006, LT. 2exs., 出雲市園町沖ノ島, 2.VIII.2006, LT. 1ex., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

チビヒラタガムシ *Enochrus esuriens* (Walker)

普通種とされるが島根県ではあまり記録がない。

1ex., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 24.VII.2005.

キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus* (Sharp)

普通種のガムシであるが、今回の調査ではあまり採集することができなかった。

1ex., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006.

ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (Motschulsky)

ため池などの水生植物の豊富な止水域に生息している。

1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006.

コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp)

平野部の水田に生息するため、記録は少ない。灯火に飛来する。

1ex., 出雲市鹿園寺町中央, 14.VI.2006, LT.

ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius)

県内でもっとも普通な止水性ガムシの一つで、ため池や水田に多い。

2exs., 西郷町男池, 6.VIII.2004, LT. 1ex., 五箇村郡川ダム, 7.VIII.2004, LT. 3exs., 雲南市加茂町下神原 赤川, 1.VIII.2005, LT. 1ex., 雲南市園町沖ノ島, 29.VIII.2005, LT. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川, 4.IX.2005. 2exs., 出雲市唐川町唐川, 30.X.2005. 1ex., 出雲市島村町斐伊川河口, 25.IV.2006. 1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 14.V.2006. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006. 1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 1ex., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

タマガムシ *Amphiops mater* Sharp

県内でもっとも普通にみられる止水性ガムシの一つである。

5exs., 五箇村郡川ダム, 7.VIII.2004, LT. 2exs., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006. 2exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 4exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

マメガムシ *Regimbartia attenuata* (Fabricius)

県内でもっとも普通にみられる止水性ガムシの一つである。

5exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006, LT.

ゴマフガムシ *Berosus punctipennis* (Harold)

止水性種。ヤマトゴマフガムシに比べてやや少ない。

1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006, LT. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006.

ヤマトゴマフガムシ *Berosus japonicus* Sharp

県内でもっとも普通にみられる止水性ガムシの一つである。

8exs., 西郷町男池, 6.VIII.2004, LT. 1ex., 出

雲市島村町斐伊川河口, 25.IV.2006. 2exs., 出雲市園町沖ノ島, 2.VIII.2006. LT. 4exs., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 10.IX.2006.

トゲバゴマフガムシ *Berosus lewisius* Sharp

普通種とされているが, 島根県東部での記録は少ない.

2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 29.VII.2006, LT.

ホソガムシ科 Hydrochidae

県内にはヤマトホソガムシとチュウブホソガムシの2種が記録されている (星川・小倉, 1998; 川野, 2005). 成虫・幼虫共に止水域に生息する. チュウブホソガムシ

Hydrochus chubu Balfour-Browne

ヤマトホソガムシより少ない種である. しまねRDBで情報不足DDに指定されている (島根県, 2004).

1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006. 3exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 3exs., 松江市大垣町布川, 30.IX.2006.

ダルマガムシ科 Hydraenidae

成虫・幼虫ともに水生または半水生. 島根県ではこれまでミヤタケダルマガムシの記録しかなかったが, 今回の調査で3種のセスジダルマガムシ属を採集した. このほか, 海岸性種のクロコブセスジダルマガムシが出雲市坂浦町と日御碕の海岸で確認されている (河上・林, 2007). これは, 日本海側では初めての記録である. さらに, 未記載種と思われる流水性のダルマガムシ属も採集されており, 分類学的な検討が必要である.

セスジダルマガムシ

Ochthebius inermis Sharp 【島根県初記録】

ふるさと尺の内公園では, 流水付近にたまったアオミドロ中に多くの成虫と幼虫がいるのが確認された.

91exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 17.VI.2006. 2exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 8.VII.2006. 2exs., 雲南市木次町ふるさと尺

の内公園, 5.VIII.2006. 5exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 26.VIII.2006. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 6.IX.2006.

ハセガワセスジダルマガムシ

Ochthebius hasegawai Nakane et Matsui

【島根県初記録】

(図1C)

成虫は, 日当たりの良い川に生息し, 流水中から突き出た岩の表面にいる (図2). 奥出雲町船通山では, 水面上の石に生えたコケ (蘚類) の中に潜んでいた. 三刀屋町栗谷では, 石の表面に生えた藻類の上を歩いていた.

6exs., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 16.VII.2006. 3exs., 雲南市三刀屋町栗谷 三刀屋川, 12.VIII.2006.

ホンシュウセスジダルマガムシ

Ochthebius japonicus Jäch 【島根県初記録】

(図1D)

成虫は, 流路から外れた場所にある直径50-60cmほどの石の側面や裏面に隠れていた.

3exs., 雲南市三刀屋町栗谷 三刀屋川, 31.X.2006. 4exs., 雲南市木次町西日登引野 日登魚道 斐伊川, 2.XI.2006.

ミヤタケダルマガムシ

Hydraena miyatakei M. Sato

おもにため池に生息し, 成虫は水中の落葉や枯草の攪拌によって水面付近に浮き上がってくる. ふるさと尺の内公園では湿地や緩い流れにある落ち葉の表面に付着していた. 島根県内では, 旧平田市や隠岐の島後で記録されている (川野ほか, 2006; 林ほか, 2006).

1ex., 出雲市唐川町唐川, 15.V.2005. 3exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006. 3exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 11.IX.2006. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 6.IX.2006.

マルハナノミ科 Scirtidae

成虫は陸生で, 幼虫は水生である. Yoshitomi (2005) によって日本産マルハナノミ科の分類学的

な研究成果がまとめられ、交尾器を検討することによって種の同定が可能になった。今回の検討により、以下の13種を島根県から確認することができた。ほとんどの種は島根県での初記録種である。さらに多くの種が確認される可能性が高い。

コクロマルハナノミ

Odeles inornata (Lewis) 【島根県初記録】

成虫は、山地の溪流沿いの草上から採集された(図3)。

2exs., 奥出雲町玉峰森林公園, 30.IV.2005. 3exs., 飯南町大万木山門坂, 4.V.2006.

クロマルハナノミ

Odeles wilsoni (Pic) 【島根県初記録】

前種と同様、成虫は山地の溪流沿いの草上から採集された。

1ex., 飯南町大万木山位出坂, 16.V.2005.

ヒメキムネマルハナノミ

Sacodes minima (Klausnitzer) 【島根県初記録】

ふるさと尺の内公園のコナラやシラカシを主体とする森林の林縁に仕掛けたマレーゼトラップやフライト・インターセプション・トラップ(FIT)で採集された。ふるさと尺の内公園では、4月下旬から6月上旬に成虫が出現した。

1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 20.-27.IV.2006, FIT. 5exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 20.-27.IV.2006, MT. 4exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 27.IV.-2.V.2006, MT. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 2.-5.V.2006, FIT. 4exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 2.-8.V.2006, MT. 3exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 19.V.-5.VI.2006, MT.

ケシマルハナノミ

Hydrocyphon satoi Yoshitomi 【島根県初記録】

成虫は山地の溪流沿いの草上から採集された。

1ex., 飯南町大万木山門坂, 4.V.2006. 2exs., 飯南町大万木山門坂, 15.V.2006.

トビイロマルハナノミ

Scirtes japonicus Kiesenwetter

平地のヨシ原やため池周辺など、平野から丘陵地で多くの個体が採集された。灯火にも飛来する。島根県ではもっとも普通にみられるマルハナノミの一つである。

1ex., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006. 2exs., 平田市島村町斐伊川河口右岸, 10.IV.2004. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 13.V.2006. 1ex., 出雲市園町沖ノ島穴道湖グリーンパーク, 11.-21.IV.2006, MT. 3exs., 出雲市島村町斐伊川河口右岸, 25.IV.2006. 14exs., 松江市島根町別所干瀧橋 澄水川, 19.VI.2006, LT. 1ex., 出雲市奥宇賀町和田上, 9.IX.2006.

ヒメマルハナノミ *Scirtes sobrinus* Lewis

ふるさと尺の内公園では、6月上旬から9月上旬まで、小川沿いや湿地の草上で成虫がみられた(図4)。

1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 5.VI.2006. 6exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 17.VI.2006. 8exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 8.VII.2006. 2exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 22.VII.2006. 7exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 5.VIII.2006. 4exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 6.IX.2006. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 8.-22.VII.2006, MT.

セダカマルハナノミ

Prinocyphon ovalis Kiesenwetter 【島根県初記録】

ふるさと尺の内公園に仕掛けたマレーゼトラップで2個体のみが採集された。

1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 5.-17.VI.2006, MT. 1ex., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 8.-22.VII.2006, MT.

シコクホソチビマルハナノミ

Cyphon ohbayashii Yoshitomi 【島根県初記録】

山地の小湿地で採集した。

1ex., 浜田市金城町木東峠 周布川, 10.VI.2006.

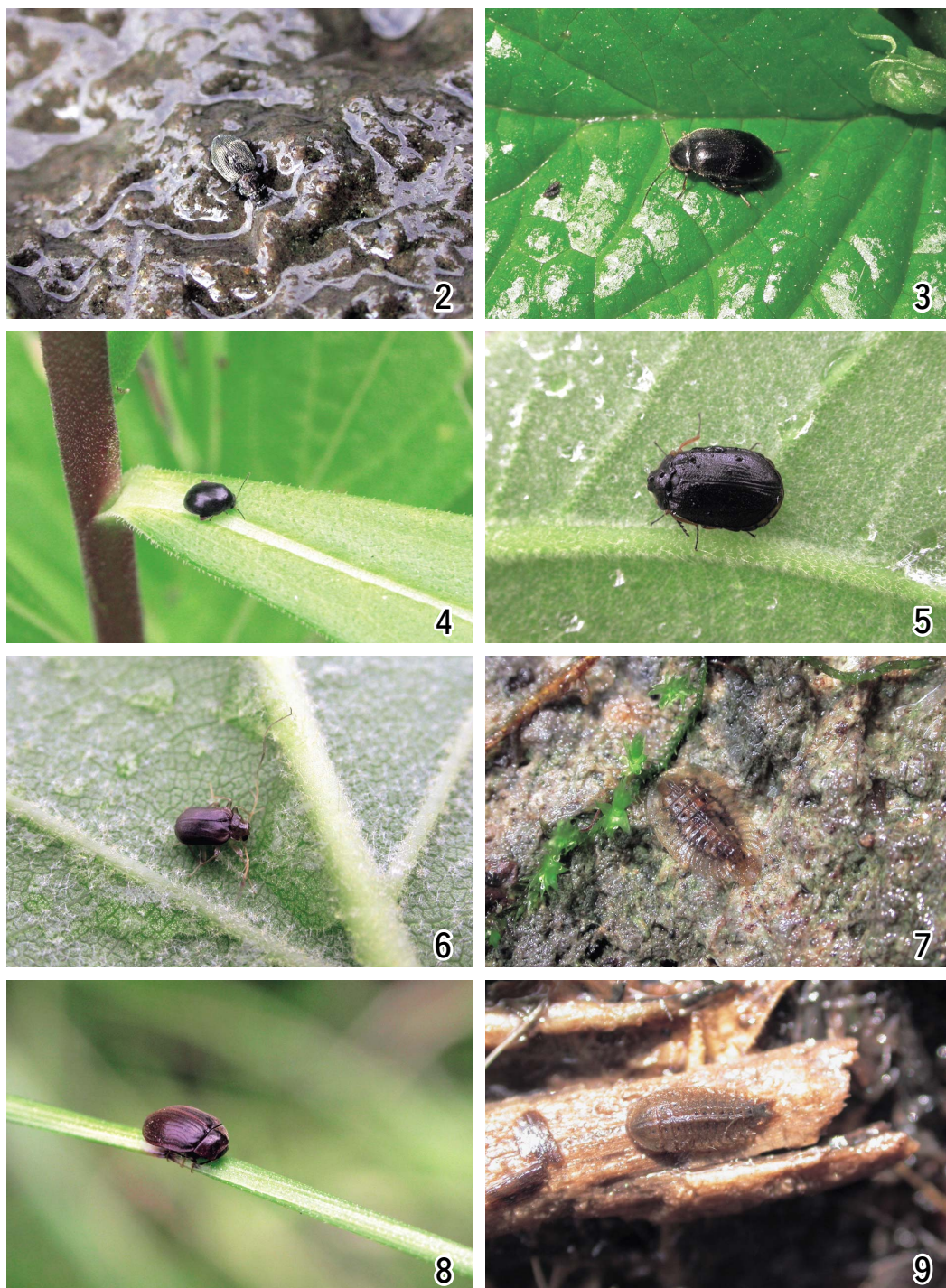


図 2-9 島根県産水生甲虫生態写真 (1)

2, ハセガワセスジダルマガムシ (三刀屋栗谷, 2006.8.12); 3, コクロマルハナノミ (大万木山, 2006.5.15); 4, ヒメマルハナノミ (尺の内, 2006.8.5); 5, マルヒラタドロムシ♀ (尺の内, 2006.5.13); 6, マスダチビヒラタドロムシ♂ (尺の内, 2006.5.13); 7, ヒゲナガヒラタドロムシ幼虫 (船通山, 2006.11.3); 8, ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ♀ (尺の内, 2006.8.5); 9, ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ幼虫 (尺の内, 2006.10.28).

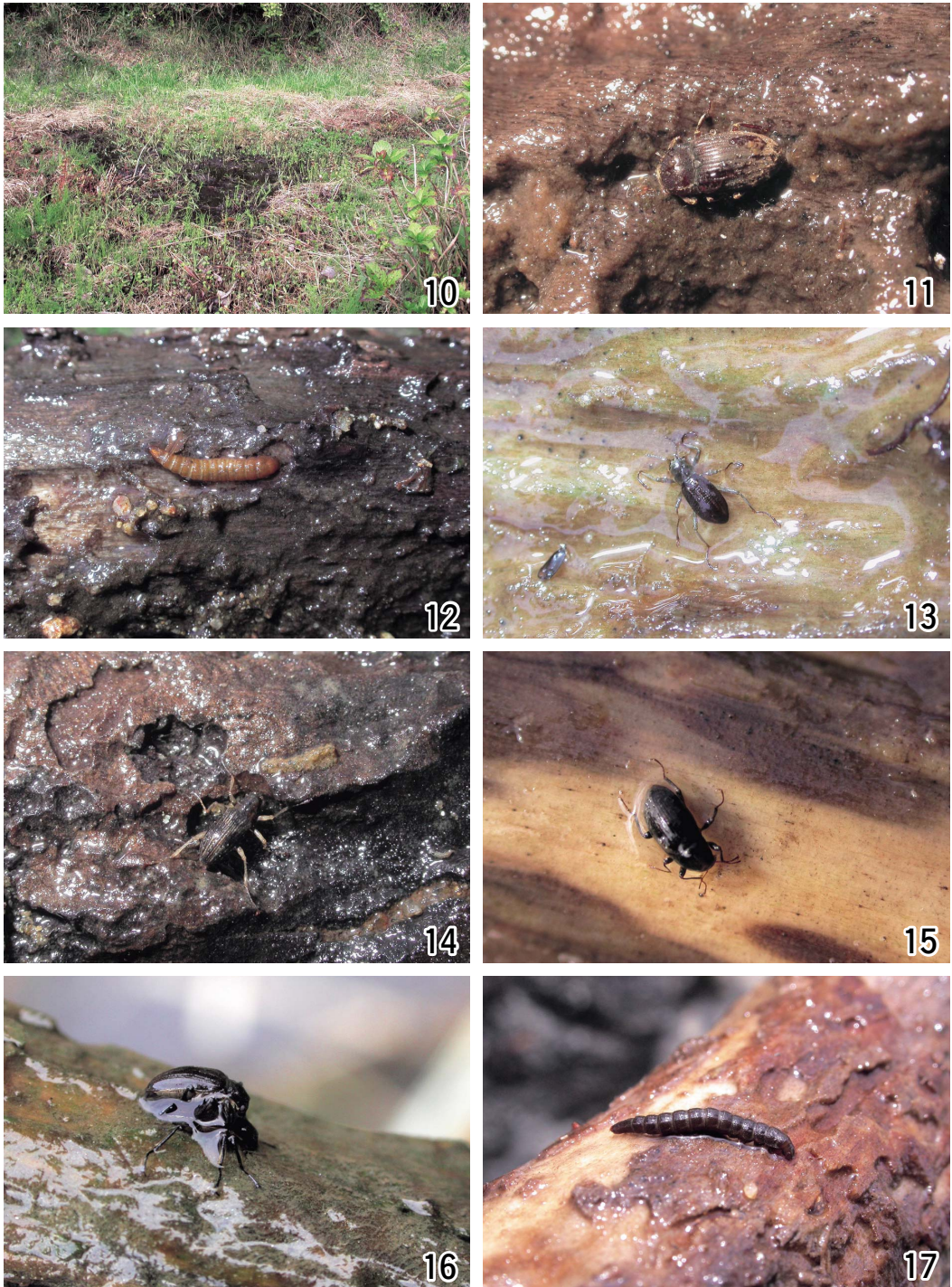


図 10-17 島根県産水生甲虫生態写真 (2)

10、ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ幼虫の生息場所（尺の内，2006.10.28）；11、ハバビロドロムシ（大万木山，2006.5.15）；12、ハバビロドロムシ幼虫（大万木山，2006.5.4）；13、ヨコミゾドロムシ（斐伊川，2006.6.4）；14、アヤスジミゾドロムシ（斐伊川，2006.8.19）；15、クロサワドロムシ（船通山，2006.9.8）；16、ケスジドロムシ交尾（斐伊川，2006.8.6）；17、ケスジドロムシ幼虫（斐伊川，2006.8.13）。

アカチャチビマルハナノミ

Cyphon japonicola Nakane 【島根県初記録】

山地の小湿地で採集した。

4exs., 浜田市金城町木東峠 周布川, 10.VI.2006.

ウスチャチビマルハナノミ

Cyphon sasagawai Yoshitomi et Klausnitzer
【島根県初記録】

山地の小湿地で採集した。

7exs., 浜田市金城町木東峠 周布川, 10.VI.2006.

キイロチビマルハナノミ

Cyphon fuscomarginatus Nakane 【島根県初記録】

ため池周囲の湿地で採集した。

4exs., 出雲市小境町本性寺, 14.V.2006. 2exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006.

ニッポンチビマルハナノミ

Cyphon nipponicus Yoshitomi 【島根県初記録】

川沿いの草むらから採集した。

1ex., 出雲市河下町山崎, 6.VI.2006.

チャイロチビマルハナノミ

Cyphon consobrinus Nyholm 【島根県初記録】

ため池の周りの湿地で採集したほか、宍道湖グリーンパークに設置したマレーゼトラップで2個体が採集された。

1ex., 出雲市園町沖ノ島宍道湖グリーンパーク, 6.-11.IV.2006, MT. 1ex., 出雲市園町沖ノ島宍道湖グリーンパーク, 11.-21.IV.2006, MT. 1ex., 出雲市小境町本性寺, 14.V.2006. 2exs., 松江市鹿島町佐陀宮内, 3.V.2006.

ヒラタドロムシ科 Psephenidae

成虫は陸生または半水生で、幼虫は水生。流水性の種が多く、幼虫はいずれも扁平で特徴的な形態を持っている。今回の調査では7種の成虫が確認され、1種は島根県初記録である。

ヒラタドロムシ

Mataeopsephus japonicus japonicus (Matsumura)

成虫の発生時期は7月中旬から8月中旬に限られるようである。幼虫は中規模河川の瀬などでよくみられる。山地の小河川が多い隠岐島後からも本種が記録されており、ヒメヒラタドロムシの誤同定も考えられたので再度確認したが、やはり本種であった。

3exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 24.VII.2005. 2exs., 雲南市加茂町下神原 赤川, 1.VIII.2005, 電灯. 2exs., 雲南市加茂町三代橋 斐伊川, 1.VIII.2005, 電灯. 2exs., 隠岐の島町小路 小路川, 9.VIII.2005, LT (林 ほか, 2006). 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006, LT. 1ex., 雲南市三刀屋町栗谷 三刀屋川, 12.VIII.2006.

マルヒラタドロムシ

Eubrianax ramicornis Kiesenwetter
(図 1E, F)

ふるさと尺の内公園では、成虫の発生時期は4月下旬から5月中旬で、川沿いの草にとまっている (図 5)。

1♀, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 28.IV.2005. 5♂5♀, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 13.V.2006. 1♂1♀, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 19.V.2006. 5♂, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 21.V.2006. 1♀, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 13.-19.V.2006, MT. 1♂, 出雲市唐川町 鈴谷川, 15.V.2005.

ヒメマルヒラタドロムシ

Eubrianax pellucidus Lewis

今回の調査で成虫を確認した種の中ではもっとも少ない種のようなのである。

1♂, 奥出雲町船通山登山口 赤川, 16.VII.2006.

クシヒゲマルヒラタドロムシ

Eubrianax granicollis Lewis
(図 1G)

1♂, 雲南市木次町西日登引野 斐伊川, 30.IV.2005. 2♂, 雲南市木次町平田橋 斐伊川, 30.IV.2005. 1♂, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 19.

V.2006. 1♂, 雲南市吉田～梅木 吉田川, 14.VI.2006.

マスダチビヒラタドロムシ (マスダドロムシ)
Malacopsephenoides japonicus (Masuda)
 (図 11)

小型種であるためか、確認された例は少なかった。ふるさと尺の内公園では、水辺の広葉樹の葉裏で静止しているオスが多くみられた (図 6)。本種の学名は長く *Psephenoides japonicus* Masuda とされてきたが、Jeng *et al.* (2006) により本種を模式種として新属 *Malacopsephenoides* が設立された。

9♂, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 13.V.2006. 2♂, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 19.V.2006. 1♂, 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 13.VI.2006. 3♂, 斐川町瑞穂大橋 斐伊川, 27.VII.2006, LT.

ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ
Macroebria similis Lee, Yang et Sato
 【島根県初記録】

ふるさと尺の内公園では、7月下旬から8月上旬にかけて、小湿地の草上から採集された (図 8)。近縁種のチビマルヒゲナガハナノミとは♂交尾器の形態により区別される (図 18)。チビマルヒゲナガハナノミは、より普通な種であると思われるが、成虫を採集することはできなかった。

4exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 22.VII.2006. 11exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 5.VIII.2006. 15exs., 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 8.VIII.2006.

チビヒゲナガハナノミ
Ectopria opaca opaca (Kiesenwetter)
 (図 1H)

成虫は、5月下旬から6月中旬に川辺の草をスイーブすることにより採集された。

3♀, 飯南町下赤名, 28.V.2005. 1♀, 大田市石見銀山, 5.VI.2005. 3♂, 出雲市河下町山崎 唐川川, 6.VI.2006. 5♂2♀, 雲南市吉田～梅木 吉田川, 14.VI.2006. 7♂2♀, 出雲市鹿園寺町 境

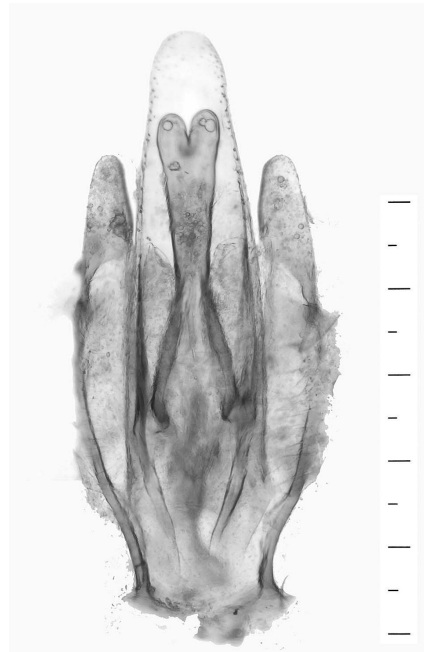


図 18 ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ♂交尾器。
 スケールは 0.5mm.

川上流, 14.VI.2006. 1♀, 松江市島根町加賀 澄水川下流, 19.VI.2006.

チビドロムシ科

海岸性種のパバチビドロムシが出雲市坂浦町の海岸で確認された (河上・林, 2007)。日本海側では初めての記録である。河川にはくつかの種が生息するが、島根県では未記録である。

ナガドロムシ科 Heteroceridae

成虫・幼虫ともに水生。日本産のナガドロムシ科はタテスジナガドロムシとタマガワナガドロムシの 2 種が分布するとされている (佐藤, 1985)。今回の調査では以下の 1 種を確認した。
 タマガワナガドロムシ

Heterocerus japonicus Kono

灯火に飛来することが多い種である。斐川町阿宮では、斐伊川の河床から 1 個体を採集した。

3exs., 雲南市加茂町三代橋 斐伊川, 1.VIII.2005, 電灯. 13exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分

流), 27.VII.2006, LT. 7exs., 斐川町瑞穂大橋
斐伊川 (分流), 29.VII.2006, LT. 8exs., 斐川町
瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006, LT. 1
ex., 斐川町阿宮宮尾 斐伊川, 16.VIII.2006.

ナガハナノミ科 Ptilodactylidae

成虫が陸生で, 幼虫は水生である. 今回の調査
では, 以下の3種が確認されただけだった. 実際
にはさらに多くの種が生息しているものと考えら
れる.

エダヒゲナガハナノミ

Epilichas flabellatus flabellatus (Kiesenwetter)

灯火採集で得た. このほか, 雲南市三刀屋町峰
寺でも灯火で採集している (林, 2006b).

1♂, 松江市島根町別所干瀧橋 澄水川, 19.VI.
2006, LT.

ヒゲナガハナノミ

Paralichas pectinatus (Kiesenwetter)

尺の内公園では, 成虫が湿地や小川周辺に多数
生息している. 湿地の泥をすくってみたところ,
多数の幼虫を得ることができた.

1♂, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 13.V.
2006. 5♂2♀, 雲南市木次町ふるさと尺の内公
園, 19.V.2006. 1♂2♀, 雲南市木次町ふるさと
尺の内公園, 5.VI.2006. 1♂1♀, 雲南市木次町
ふるさと尺の内公園, 17.VI.2006. 1♂, 雲南市
木次町ふるさと尺の内公園, 13.-19.V.2006, MT. 1♂5
♀, 雲南市木次町ふるさと尺の内公園, 19.V.-5.
VI.2006, MT. 8♂10♀, 雲南市木次町ふるさと
尺の内公園, 19.V.-5.VI.2006, FIT. 1♂, 雲南市
木次町ふるさと尺の内公園, 5.-17.VI.2006, MT. 1
♂, 奥出雲町船通山登山口 赤川, 16.VII.2006.

クリイロヒゲナガハナノミ

Pseudoepilichas niponicus (Lewis)

川沿いの草のスイープ (金城) および灯火 (出
雲) で採集した.

1♂, 浜田市金城町木束峠 周布川, 10.VI.2006.
1♀, 出雲市園町沖ノ島, 22.VI.2006, 電灯.

ドロムシ科 Dryopidae

成虫は水生であるが, 幼虫期の生態はほとんど
判っていない. 島根県では以下の1種のみが分布
している.

ムナビロツヤドロムシ

Elmomorphus brevicornis brevicornis Sharp

中流域に多い種であるが, 斐伊川の下流域でも
数は少ないながら確認された.

1ex., 雲南市掛合町八重滝, 15.V.2006. 1ex.,
斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 4.VI.2006. 2
exs., 雲南市吉田~梅木 吉田川, 14.VI.2006. 1
ex., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 31.
VII.2006. 1ex., 雲南市加茂町三代橋 斐伊川,
13.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本
流), 17.VIII.2006. 1ex., 松江市八雲町元田 意
宇川, 23.VIII.2006. 1ex., 斐川町南神立橋 斐伊
川, 25.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川
(本流), 26.VIII.2006. 21exs., 松江市島根町別所
澄水川 (浄水場付近), 30.IX.2006. 6exs., 雲南市
掛合町八重滝, 3.X.2006. 1ex., 出雲市唐川町
唐川川, 10.X.2006.

ヒメドロムシ科 Elmidae

成虫・幼虫ともに水生. すべての種が流水性で
あるが, 止水に生息することもある. 林・島田
(2006) により, 23種が記録のある種として報告さ
れたが, 今回の調査により, ホソヨコミゾドロム
シ, ハガマルヒメドロムシ, スネアカヒメドロム
シ近似種が新たに確認された.

ハバビロドロムシ

Dryopomorphus extraneus Hinton

Yoshitomi and Sato (2005) により, 生態や幼虫の
形態が報告され, 成虫・幼虫共に川底に沈んだ流
木に依存していることが明らかにされた. この報
告を参考に, 流木を重点的に調査したところ, 多
くの個体を流木の窪みから採集することができた
(図11). 幼虫も成虫と同様に, 流木の窪みにいる
ことが多かった (図12). また, 本種の越冬につい
ては不明な点が多いとされる (緒方・中島, 2006)
が, 今回の調査では, 真冬に流水中の大きな石 (直
径40-60cm程度) を起こすことにより, 本種の成
虫が採集できることが判明した. このことから,

成虫は石の下にもぐり込んで越冬していると考えられる。

2exs., 出雲市万田町深山 深山川, 24.II.2006 (石起こし). 3exs., 安来市広瀬町布部ダム, 25.II.2006 (石起こし). 1ex., 飯南町大万木山門坂, 15.V.2006 (流木). 3exs., 飯南町大万木山門坂, 4.V.2006 (流木). 1ex., 出雲市別所町鰐淵寺鰐淵寺川支流, 21.V.2006. 3exs., 浜田市金城町木束峠 周布川, 10.VI.2006 (流木). 1ex., 出雲市唐川町韓釜神社, 16.VI.2006 (流木). 1ex., 奥出雲町船通山登山口 赤川, 16.VII.2006 (流木). 6exs., 奥出雲町船通山登山口 斐伊川, 8.IX.2006 (流木). 1ex., 松江市枕木山, 24.IX.2006. 8exs., 奥出雲町吾妻山登山道 大馬木川源流 (alt.840m), 26.IX.2006 (流木). 1ex., 飯南町大万木山位出坂, 3.X.2006 (流木). 8exs., 飯南町大万木山門坂, 3.X.2006 (流木).

イブシアシナガドロムシ

Stenelmis nipponica Nomura

本種は意宇川で12月にも採集している。中規模河川の瀬で得られることが多い。しかし、斐伊川下流域では、流木から成虫が得られ、8月に個体数が増加した。

1ex., 松江市八雲町稲葉 意宇川, 10.XII.2005. 1ex., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 13.VI.2006. 1ex., 雲南市吉田～梅木 吉田川, 14.VI.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006, LT. 2exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006, LT. 2exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 31.VII.2006. 3exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 1.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 6.VIII.2006. 14exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VIII.2006. 3exs., 出雲市神立橋 斐伊川 (分流), 13.VIII.2006. 6exs., 雲南市加茂町下神原 赤川, 16.VIII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 20.VIII.2006. 5exs., 松江市八雲町元田 意宇川, 23.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋

斐伊川 (本流), 26.VIII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 7.IX.2006. 1ex., 出雲市神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006. 2exs., 出雲市北神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 29.IX.2006.

アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura

斐伊川下流域では、6月下旬から9月に成虫が確認された。出現傾向は次種のミヤモトアシナガミゾドロムシによく似ているが、本種の方が出現する時期が遅かった。水際のヨシやヤナギの根ざわ、流木から多くの個体が採集された。

4exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 24.VI.2006. 24exs., 出雲市島村町島村樋 斐伊川 (分流), 25.VI.2006. 11exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 7.VII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VII.2006. 42exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 14.VII.2006. 21exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 15.VII.2006. 21exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006, LT. 7exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 29.VII.2006, LT. 2exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 1.VIII.2006. 14exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 25exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 6.VIII.2006. 2exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VIII.2006. 6exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 10.VIII.2006. 4exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 11.VIII.2006. 8exs., 出雲市神立橋 斐伊川 (分流), 13.VIII.2006. 4exs., 雲南市加茂町下神原 赤川, 16.VIII.2006. 2exs., 雲南市加茂町下神原 斐伊川, 16.VIII.2006. 2exs., 斐川町阿宮宮尾 斐伊川, 16.VIII.2006. 7exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006. 9exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 19.VIII.2006. 12exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 20.VIII.2006. 10exs., 斐川町南神立橋 斐伊川, 25.VIII.2006. 7exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 26.VIII.2006. 3exs., 斐川町瑞穂大

橋 斐伊川 (本流), 3.IX.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.IX.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 7.IX.2006. 1ex., 出雲市神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006. 1ex., 出雲市北神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006.

ミヤモトアシナガミゾドロムシ

Stenelmis miyamotoi Nomura et Nakane

斐伊川下流域では、アシナガミゾドロムシよりも10日ほど早く出現した。個体数も全般に前種より多い。

8exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 13.VI.2006. 27exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 16.VI.2006. 24exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 21.VI.2006. 21exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 21.VI.2006. 28exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 24.VI.2006. 12exs., 出雲市島村町島村樋 斐伊川 (分流), 25.VI.2006. 3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 7.VII.2006. 55exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VII.2006. 17exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 14.VII.2006. 14exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 15.VII.2006. 54exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006. 17exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 1.VIII.2006. 27exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 56exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 6.VIII.2006. 32exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VIII.2006. 30exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 10.VIII.2006. 39exs., 出雲市神立橋 斐伊川 (分流), 13.VIII.2006. 10exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 11.VIII.2006. 4exs., 斐川町阿宮宮尾 斐伊川, 16.VIII.2006. 8exs., 雲南市加茂町下神原 赤川, 16.VIII.2006. 8exs., 雲南市加茂町下神原 斐伊川, 16.VIII.2006. 29exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006. 23exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 19.VIII.2006. 54exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 20.VIII.2006. 28exs., 斐川町南神立橋 斐伊川, 25.VIII.2006. 40exs., 斐川町瑞

穂大橋 斐伊川 (本流), 26.VIII.2006. 24exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 3.IX.2006. 3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.IX.2006. 15exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 7.IX.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 12.IX.2006. 2exs., 出雲市神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006. 1ex., 出雲市北神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 14.X.2006.

ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura

今回の調査でも斐伊川水系では確認できなかった。林・島田 (2006) によって報告された、神戸川の産地で得たのみである。なお、大山山麓では複数の地点で確認している (林・門脇, 2007)。

2exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 31.VII.2006.

アカモンミゾドロムシ

Ordobrevia maculata (Nomura)

本種が確認された産地は、すべて上流から源流域である。

1ex., 松江市枕木山, 29.I.2006. 1ex., 松江市枕木山, 11.II.2006. 1ex., 出雲市別所町鰐淵寺 鰐淵寺川, 13.II.2006. 5exs., 松江市島根町御手洗滝, 24.II.2006. 8exs., 出雲市万田町深山 深山川, 24.II.2006. 3exs., 出雲市万田町深山 深山川, 3.V.2006. 6exs., 飯南町大万木山門坂, 4.V.2006. 4exs., 出雲市猪目町 (旧大社町・平田市の境界付近) 猪目川, 29.IV.2006. 1ex., 出雲市唐川町韓釜神社, 16.VI.2006. 2exs., 雲南市吉田町杉戸 吉田川上流, 6.VIII.2006. 3exs., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 8.IX.2006. 1ex., 松江市枕木山, 24.IX.2006. 3exs., 雲南市大東町奥山 刈畑川, 22.IX.2006. 1ex., 奥出雲町吾妻山登山道 大馬木川源流 (alt.840m), 26.IX.2006. 1ex., 松江市島根町別所 澄水川 (浄水場付近), 30.IX.2006. 3exs., 飯南町大万木山位出坂, 3.X.2006. 1ex., 飯南町大万木山門坂, 3.X.2006.

キスジミゾドロムシ

Ordobrevia foveicollis (Schonfeldt)

斐伊川下流域において、7月末から8月中旬に、灯火で4個体、水中から7個体を得たのみである。

3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006, LT. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 29.VII.2006, LT. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 6.VIII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 10.VIII.2006. 1ex., 斐川町阿宮宮尾 斐伊川, 16.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006.

ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp

すべて斐伊川下流域の流木や植物の根際から採集された (図13). 環境省 RDB で絶滅危惧Ⅰ類とされている (環境省, 2006).

10exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 4.VI.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 21.VI.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 15.VII.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 4exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 11.VIII.2006. 1ex., 出雲市神立橋 斐伊川 (分流), 13.VIII.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 20.VIII.2006. 2exs., 斐川町南神立橋 斐伊川, 25.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 3.IX.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 7.IX.2006. 3exs., 出雲市神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 29.IX.2006.

ホソヨコミゾドロムシ

Leptelmis parallela Nomura 【島根県初記録】

(図1J)

ヨコミゾドロムシと同様に、すべて斐伊川下流域の流木や植物の根際から採集された。

3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 16.VI.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川

(分流), 21.VI.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 1ex., 出雲市神立橋 斐伊川 (分流), 13.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 26.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 24.IX.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 24.IX.2006. 2exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 29.IX.2006.

アヤスジミゾドロムシ

Graphelemis shirahatai (Nomura)

斐伊川下流域での生息状況は Hayashi (2007) で報告した。ほとんどの個体は流木から得られた (図14). 本種が多く生息する流木は、表面に凹凸が多く、常に水の流れが当たる場所に沈んでいた。流木は河畔林として生えているヤナギ類が多かった。一方、水の流れのない場所の流木から得られることはほとんどなかった。

8exs., 出雲市神立橋 斐伊川 (分流), 13.VIII.2006. 斐川町南神立橋 斐伊川, 25.VIII.2006. 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 12.IX.2006. 6exs., 出雲市北神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006.

クロサワドロムシ *Neoriorhynchus kurosawai* Nomura (図1K)

島根県ではこれまで文献の記録のみであったが、実際に斐伊川水系の上流部で生息を確認することができた。流木から得られた個体もいた (図15).

1ex., 奥出雲町船通山登山口 赤川, 16.VII.2006. 1ex., 雲南市吉田町杉戸 吉田川上流, 6.VIII.2006 (流木). 1ex., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 8.IX.2006 (流木).

ハガマルヒメドロムシ

Optioservus hagai Nomura 【本州初記録】

(図1M)

これまで九州北部のみに分布するとされた種であるが、本州西部にも分布していることが明らかになった。本種は大山山麓でも確認されている (林・門脇, 2007).

1ex., 浜田市金城町木束峠 周布川, 10.VI.2006. 1ex., 飯南町大万木山位出坂, 3.X.2006.

スネアカヒメドロムシ近似種

Optioservus sp. 【鳥根県初記録】

(図 1L)

脛節が赤く、スネアカヒメドロムシによく似ているが、斑紋を欠くなどの特徴がある。

5exs., 奥出雲町吾妻山登山道 大馬木川源流 (alt.840m), 26.IX.2006.

セアカヒメドロムシ

Optioservus maculatus Nomura

山地性の種で、標高 600m 以上の沢に生息している。船通山のほか、大万木山や三瓶山の山系でも確認した。いずれの確認地点でも個体数は少ない。

3exs., 奥出雲町船通山登山口 赤川, 16.VII.2006. 2exs., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 16.VII.2006. 2exs., 雲南市吉田町杉戸 吉田川上流, 6.VIII.2006. 5exs., 奥出雲町船通山登山口 赤川, 8.IX.2006. 1ex., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 8.IX.2006. 2exs., 大田市三瓶町志学 早水川支流, 23.IX.2006.

ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura

上流域に多い種であるが、少ないながらも斐伊川の下流域でも確認された。

7exs., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 16.VII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006. 1ex., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 31.VII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 20.VIII.2006. 2exs., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 8.IX.2006. 7exs., 大田市三瓶町志学 早水川支流, 23.IX.2006. 2exs., 雲南市掛合町八重滝, 3.X.2006.

ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura

斐伊川の下流域で確認した。幼虫も含め、流木表面から得られることが多い (図 16, 17)。また、三刀屋川では幼虫を確認している。本種は、環境省 RDB で準絶滅危惧とされている (環境省,

2006)。

1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 13.VI.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 16.VI.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 14.VII.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 15.VII.2006. 7exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 6.VIII.2006. 4exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 10.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 11.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006. 5exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006.

キベリナガアシドロムシ

Grouvellinus marginatus (Kono)

主として、斐伊川の下流域で確認された。流木や根際から採集された。

3exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 13.VI.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 13.VI.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 15.VII.2006. 4exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 27.VII.2006. LT. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 29.VII.2006. LT. 3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006. LT. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 30.VII.2006. 4exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 31.VII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 3.VIII.2006. 3exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (分流), 8.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (分流), 11.VIII.2006. 3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 19.VIII.2006. 6exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 20.VIII.2006. 3exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 26.VIII.2006. 1ex., 安来市広瀬町新宮 飯梨川, 3.IX.2006. 2exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 7.IX.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本流), 12.IX.2006. 1ex., 出雲市北神立橋 斐伊川 (本流), 20.IX.2006. 1ex.,

出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川（本流），29.IX.2006.

ツヤナガアシドロムシ

Grouvellinus nitidus Nomura

近縁種のキベリナガアシドロムシよりも上流域に生息する種である。

2exs., 出雲市鹿園寺町 境川上流, 14.VI.2006. 1ex., 雲南市吉田町杉戸 吉田川上流, 6.VIII.2006. 1ex., 奥出雲町船通山 斐伊川（赤川合流）, 8.IX.2006. 1ex., 雲南市大東町奥山 刈畑川, 22.IX.2006. 3exs., 雲南市掛合町八重滝, 3.X.2006.

ホソヒメツヤドロムシ

Zaitzeviaria gotoi (Nomura)

主に上流域に生息する種である。

1ex., 飯南町大万木山門坂, 4.V.2006. 2exs., 奥出雲町船通山 斐伊川（赤川合流）, 16.IV.2006. 1ex., 奥出雲町船通山登山口 斐伊川, 16.IV.2006. 5exs., 雲南市掛合町八重滝, 15.V.2006. 1ex., 出雲市河下町山崎 唐川川, 6.VI.2006. 3exs., 奥出雲町船通山 斐伊川（赤川合流）, 16.VII.2006. 2exs., 奥出雲町船通山 斐伊川（赤川合流）, 8.IX.2006. 6exs., 雲南市大東町奥山 刈畑川, 22.IX.2006. 4exs., 雲南市大東町南村 赤川, 22.IX.2006.

マルヒメツヤドロムシ

Zaitzeviaria ovata (Nomura)

主に上流域に生息する種である。島根半島の沢では真冬にも採集することができた。

1ex., 松江市枕木山, 29.I.2006. 5exs., 松江市枕木山, 11.II.2006. 15exs., 松江市島根町御手洗滝, 19.II.2006. 29exs., 出雲市万田町深山 深山川, 24.II.2006. 1ex., 安来市広瀬町布部ダム, 25.II.2006. 11exs., 出雲市大社町奥谷, 5.III.2006. 2exs., 出雲市猪目町（旧大社町・平田市の境界付近） 猪目川, 5.III.2006. 2exs., 奥出雲町船通山登山口 斐伊川, 16.IV.2006. 7exs., 出雲市万田町深山 深山川, 3.V.2006. 1ex., 飯南町大万木山門坂, 4.V.2006. 1ex., 松江

市枕木山, 24.IX.2006. 2exs., 大田市三瓶町志学早水川支流, 23.IX.2006.

ヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria brevis* (Nomura)

本種は中流域にある、有機質の多い河川に生息する。今回の調査では、中流域での調査が少なかったためか、以下の4例のみの記録となった。

2exs., 雲南市三刀屋町栗谷 三刀屋川, 12.VIII.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川（本流）, 20.VIII.2006. 1ex., 松江市八雲町元田意宇川, 23.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（本流）, 14.X.2006.

アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana* (Kono)

島根県ではもっとも普通にみられるヒメドロムシである。一般に石が多い瀬に生息していることが多いが、斐伊川下流域では流木に付着している個体が多かった。

4exs., 松江市八雲町稲葉 意宇川, 10.XII.2005. 2exs., 雲南市掛合町八重滝, 15.V.2006. 6exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 2.VI.2006. 4exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 4.VI.2006. 17exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 13.VI.2006. 1ex., 出雲市多久谷町畑 多久谷川, 15.VI.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 16.VI.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 21.VI.2006. 4exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 14.VII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 15.VII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 27.VII.2006, LT. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 29.VII.2006, LT. 2exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川（分流）, 30.VII.2006. 17exs., 出雲市立久恵峡わかあゆの里 神戸川, 31.VII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 30.VII.2006, LT. 6exs., 出雲市島村町島村沈下橋 斐伊川（分流）, 1.VIII.2006. 4exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 3.VIII.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 6.VIII.2006. 11exs., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 8.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川（分流）, 10.VIII.2006. 1ex., 雲南市三刀屋町栗谷

三刀屋川, 12.VIII.2006. 2exs., 斐川町阿宮宮尾
斐伊川, 16.VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐
伊川 (分流), 11.VIII.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大
橋 斐伊川 (本流), 17.VIII.2006. 1ex., 出雲市
島村町島村沈下橋 斐伊川 (本流), 20.VIII.
2006. 6exs., 松江市八雲町元田 意宇川, 23.
VIII.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川 (本
流), 3.IX.2006. 5exs., 安来市広瀬町新宮 飯梨
川, 3.IX.2006. 1ex., 出雲市島村町島村沈下橋
斐伊川 (本流), 7.IX.2006. 1ex., 雲南市大東町
南村 赤川, 22.IX.2006. 2exs., 斐川町瑞穂大橋
斐伊川 (本流), 24.IX.2006. 2exs., 奥出雲町横田
斐伊川, 26.IX.2006. 3exs., 雲南市掛合町八重
滝, 3.X.2006. 1ex., 斐川町瑞穂大橋 斐伊川
(本流), 14.X.2006.

ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia rivalis* Nomura

アワツヤドロムシよりも上流域に生息する種で
ある。雲南市掛合町八重滝では、両種が混生して
いる。下記の地点のほか、松江市島根町の澄水川
でも採集している (林・中野, 2007)。

6exs., 雲南市掛合町八重滝, 15.V.2006. 1
ex., 出雲市河下町山崎 唐川川, 6.VI.2006. 6
exs., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川合流), 16.
VII.2006. 5exs., 奥出雲町船通山登山口 赤川,
8.IX.2006. 2exs., 奥出雲町船通山 斐伊川 (赤川
合流), 8.IX.2006. 1ex., 雲南市大東町奥山 刈
畑川, 22.IX.2006. 5exs., 大田市三瓶町志学 早
水川支流, 23.IX.2006. 20exs., 松江市島根町別所
澄水川 (浄水場付近), 30.IX.2006. 1ex., 雲南市
掛合町八重滝, 3.X.2006.

ハムシ科 Chrysomelidae

ハムシ科の中には少数ではあるが、生活史の一
部を水中または水面上で過ごすグループがあり、
幼虫が水面下の根を食害するネクイハムシ亜科や
水面の浮葉上ですべてのステージをおくるジュン
サイハムシなどがある。

アキミズクサハムシ (アキネクイハムシ)

Plateumaris akiensis Tominaga et Kastura

【島根県初記録】

これまで広島県の旧芸北町のみから知られてい

たが、隣接する島根県側の湿地でも生息を確認す
ることができた。

1ex., 浜田市金城町木束峠, 10.VI.2006.

ツヤネクイハムシ *Donacia nitidior* (Nakane)

県内では飯南町の赤名で記録がある (林, 2006c).
2exs., 浜田市金城町木束峠, 10.VI.2006.

島根県の水生甲虫相

これまでの調査や文献記録から判明した島根県
の水生甲虫相について、生息環境ごとに概観し、
特徴的な種について述べる。

池や湿地などの止水域では、コガシラミズムシ
科6種、コツブゲンゴロウ科1種、ゲンゴロウ科
31種、ミズスマシ科3種、ホソガムシ科2種、ガ
ムシ科16種、ダルマガムシ科1種、マルハナノミ
科9種、ヒラタドロムシ科1種、ナガドロムシ科
1種、ヒゲナガハナノミ科1種、ハムシ科 (ネクイ
ハムシ亜科) 6種が確認されている。ゲンゴロウ科
やガムシ科などの大多数の種は、池や休耕田など
水生植物の豊富な止水域に生息している。このほ
か、ネクイハムシ亜科やマルハナノミ科のいくつ
かの種は山間の湿地で確認されているが、隣接す
る広島県に比べ、ある程度の面積がある湿地は非
常に少ない。また、森林性のキムネマルハナノミ
属やエダヒゲマルハナノミ属 (マルハナノミ科)
は幼虫が樹洞の水たまりに生息する (佐藤・吉
富, 2005)。今回の調査によりマルハナノミ科の多
くの種が島根県から初めて記録されたほか、ヒラ
タドロムシ科のホンシュウチビマルヒゲナガハナ
ノミが湿地に生息する種であることが判明した。

河川や小規模な沢、岩盤の浸みだしなどの流水
域では、ゲンゴロウ科4種、ミズスマシ科1種、
ツブミズムシ科1種、ガムシ科4種、ダルマガム
シ科4種、マルハナノミ科4種、ヒラタドロムシ
科10種、ドロムシ科1種、ヒメドロムシ科25種
が確認された。クロサワツブミズムシやダルマガ
ムシ科のほとんどは、今回の調査で初めて島根県
から記録された。特筆すべき種としては、ヒラタ
ドロムシ科のヒゲナガヒラタドロムシの幼虫を中
部地方以外で初めて確認することができた。また、

水生昆虫の多くが河川の規模や流速、水温、水質、底質などによって棲み分けていることが知られているが、ヒメドロムシ科の調査結果から、島根県の河川でも種ごとに分布が大きく異なることが明らかに becoming つつある（林・島田, 2005; 本報告）。流水域の水生甲虫類の研究は、止水性の種に比べて未解明な点が多いが、幼虫形態や生態、分布の調査が進めば、他の水生昆虫類と同様に河川環境を検討する上での有用な材料になり得る。

海岸では、出雲市の岩礁からダルマガムシ科のクロコブセスジダルマガムシとチビドロムシ科のババチビドロムシが確認されている（河上・林, 2007）。また、チャイロチビゲンゴロウも隠岐を含め島根半島各地の岩礁海岸の水たまりに生息している（林・島田, 2005; 河上・林, 2007）。

地下水生の種についてはまったく資料がない。ゲンゴロウ科やヒメドロムシ科の種が発見される可能性はあると考えている。

このほか未発見の科としてマルドロムシ科があげられる。シワムネマルドロムシは灯火によく飛来する種とされており（佐藤, 1981）、もっとも可能性が高い。種レベルでは、ゲンゴロウ科、ガムシ科、ダルマガムシ科、マルハナノミ科、チビドロムシ科、ナガドロムシ科、ナガハナノミ科などで追加が期待される。とりわけナガハナノミ科はほとんど調査が行われていない。河川で幼虫が採集されることも多く、幼虫形態の解明も必要である。なお、ゾウムシ類にも池などの水面を覆う浮葉植物を食草としている種があり、調査が必要である。

斐伊川水系におけるヒメドロムシ類の分布

島根県東部におけるドロムシ科・ヒメドロムシ科の分布状況は林・島田（2006）によって概要が報告され、文献記録も含めて23種が記録された。2006年はさらに調査を行い3種を新たに確認することができた。この2年間の調査により、斐伊川水系におけるヒメドロムシ類の分布がより詳しく解明されたので、分布図を作成し、各種の分布状況を検討する。

各種の分布図を図19から21に示す。表1には、斐伊川水系を中心として明らかになったヒメドロ

ムシ類の分布を整理した。ほとんどの種が上流・中流・下流いずれかの流域を好んで生息している。

上流では、ハバビドロムシが源流の沢に生息しており、あまり水の流れていない場所でも水が枯れなければ確認でき、成虫・幼虫ともに沢底に流れ着いた流木を食べている。この様な沢では、アカモンミゾドロムシやマルヒメツヤドロムシが見つかることが多い。セアカヒメドロムシとスネアカヒメドロムシ近似種も上流域の種であるが、比較的標高の高い場所に生息し、スネアカヒメドロムシ近似種は標高800m以上の沢が目安になりそうである。クロサワドロムシは比較的に水量の多い沢で確認された。このほか、ツヤナガアシドロムシやホソヒメツヤドロムシ、ミゾツヤドロムシも上流に多い種であるが、他の種に比べて分布は広いとみられる。今回、本州から初めて記録されたハガマルヒメドロムシは、九州では丘陵地帯を流れる河川で採集されている（緒方・中島, 2006）が、島根県で確認された2カ所はいずれも源流域の溪流である。

中流ではムナビロツヤドロムシやツヤヒメドロムシ、ヒメツヤドロムシ、アワツヤドロムシが多い。ムナビロツヤドロムシは、ツルヨシなどの植物の根が露出している淵で多くの成虫が生息していることがある。そのほかの種は円礫の多い瀬に生息している。とりわけアワツヤドロムシは県内でもっとも広く分布している種の一つである。

下流域、とりわけ斐伊川の下流では、アシナガミゾドロムシ、ミヤモトアシナガミゾドロムシ、キスジミゾドロムシ、ヨコミゾドロムシ、ホソヨコミゾドロムシ、アヤスジミゾドロムシ、ケスジドロムシ、キベリナガアシドロムシが主に生息している。ヨシなどの植物が水辺に多く生えている場所では、アシナガミゾドロムシとミヤモトアシナガミゾドロムシが多い。そのほかの種は、主に流木や水辺のヤナギ類の倒木や根にしがみついている。

近縁種間の関係を分布から検討すると、アシナガミゾドロムシとミヤモトアシナガミゾドロムシ、ヨコミゾドロムシとホソヨコミゾドロムシは、ほぼ同所的に生息している。一方、キベリナガアシドロムシとツヤナガアシドロムシと、アワツヤド

表1 島根県産ヒメドロムシ類分布表

和 名	学 名	本 土			隠 岐
		上流	中流	下流	
ドロムシ科					
1 ムナビロツヤドロムシ	<i>Elmomorphus brevicornis brevicornis</i> Sharp	○	◎	○	○
ヒメドロムシ科					
2 ハバビロドロムシ	<i>Dryopomorphus extraneus</i> Hinton	◎			
3 イブシアシナガドロムシ	<i>Stenelmis nipponica</i> Nomura	○	◎	○	
4 アシナガミゾドロムシ	<i>Stenelmis vulgaris</i> Nomura		○	◎	
5 ミヤモトアシナガミゾドロムシ	<i>Stenelmis miyamotoi</i> Nomura et Nakane		○	◎	
6 キスジミゾドロムシ	<i>Ordobrevia foveicollis</i> (Schonfeldt)		○	◎	○
7 ゴトウミゾドロムシ	<i>Ordobrevia gotoi</i> Nomura		○		○
8 アカモンミゾドロムシ	<i>Ordobrevia maculata</i> (Nomura)	◎	○		○
9 ヨコミゾドロムシ	<i>Leptelmis gracilis</i> Sharp			◎	
10 ホソヨコミゾドロムシ	<i>Leptelmis parallela</i> Nomura			◎	
11 アヤスジミゾドロムシ	<i>Graphelmis shirahatai</i> (Nomura)			◎	
12 クロサワドロムシ	<i>Neorihelmis kurosawai</i> Nomura	○			
13 ハガマルヒメドロムシ	<i>Optioservus hagai</i> Nomura	○			
14 スネアカヒメドロムシ近似種	<i>Optioservus</i> sp.	○			
15 セアカヒメドロムシ	<i>Optioservus maculatus</i> Nomura	◎			
16 ツヤヒメドロムシ	<i>Optioservus nitidus</i> Nomura	○	◎	○	○
17 ケスジドロムシ	<i>Pseudamophilus japonicus</i> Nomura		○	◎	
18 キベリナガアシドロムシ	<i>Grouvellinus marginatus</i> (Kono)		○	○	
19 ツヤナガアシドロムシ	<i>Grouvellinus nitidus</i> Nomura	◎	○		○
20 ホソヒメツヤドロムシ	<i>Zaitzeviaria gotoi</i> (Nomura)	◎	○		○
21 マルヒメツヤドロムシ	<i>Zaitzeviaria ovata</i> (Nomura)	◎	○		
22 ヒメツヤドロムシ	<i>Zaitzeviaria brevis</i> (Nomura)		◎	○	
23 アワツヤドロムシ	<i>Zaitzevia awana</i> (Kono)		◎	○	
24 ミゾツヤドロムシ	<i>Zaitzevia rivalis</i> Nomura	◎			
25 ヒメハバビロドロムシ	<i>Dryopomorphus nakanei</i> Nomura		文献記録		—
26 ツヤドロムシ	<i>Zaitzevia nitida</i> Nomura		文献記録		—

○, 生息が確認された環境; ◎, 特に多くみられた環境.

ロムシとミゾツヤドロムシは異所的に分布しているが, アワツヤドロムシとミゾツヤドロムシはまれに混棲していることがある. また, ホソヒメツヤドロムシとマルヒメツヤドロムシはほぼ同所的に生息するが, ヒメツヤドロムシと混棲する場所は限られていて異所的である. このような傾向は福岡県のヒメドロムシ類でも知られており(緒方・中島, 2006), ヒメドロムシ類の種間関係や分布要因を探る上で重要な現象であると考えられる.

斐伊川下流域におけるヒメドロムシ類の生態

斐伊川下流域では, 2005 年に全国的な希少種であるアヤスジミゾドロムシが記録された(林・島田, 2006). そこで, 2006 年はアヤスジミゾドロムシの生態を調査するため, 頻繁に調査を行った.

その結果, 生息環境や成虫の出現時期を明らかにすることができた(Hayashi, 2007). ここでは, 斐伊川下流域(瑞穂大橋~島村沈下橋の5地点)に生息するヒメドロムシ科全般についてその生態を検討する.

2006 年1月から10月までに, のべ34回の調査で採集されたヒメドロムシ類の総個体数(灯火採集で得られた個体は除く)は, ミヤモトアシナガミゾドロムシ 599 個体, アヤスジミゾドロムシ 219 個体, アシナガミゾドロムシ 197 個体, アワツヤドロムシ 46 個体, キベリナガアシドロムシ 27 個体, ケスジドロムシ 26 個体, ヨコミゾドロムシ 26 個体, イブシアシナガドロムシ 25 個体, ホソヨコミゾドロムシ 11 個体, キスジミゾドロムシ 5 個体, ツヤヒメドロムシ 3 個体, ムナビロツヤドロムシ

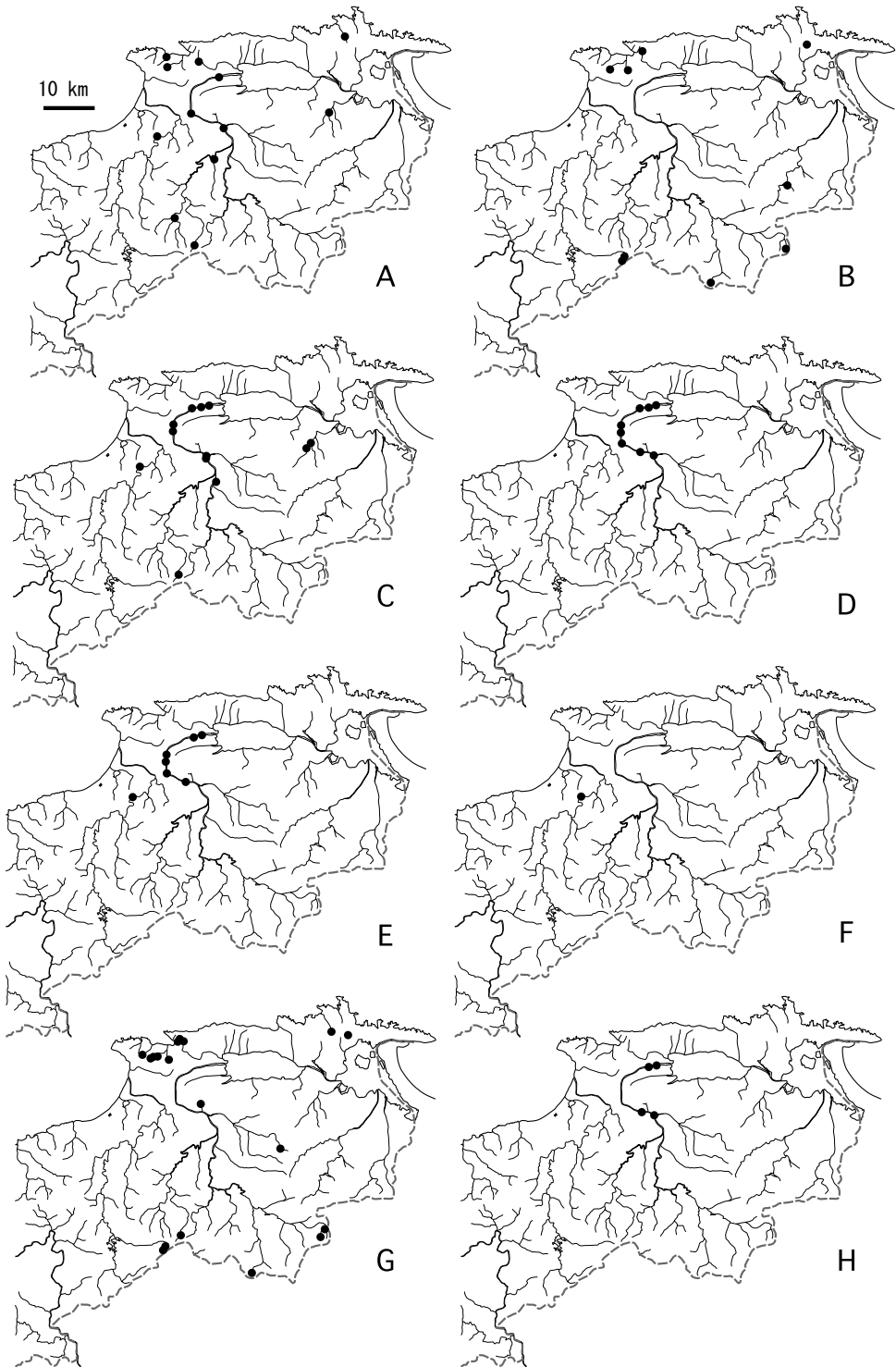


図19 島根県東部におけるヒメドロムシ類の分布図 (1)

A, ムナビロツヤドロムシ; B, ハバビロドロムシ; C, イブシアシナガドロムシ; D, アシナガミゾドロムシ; E, ミヤモトアシナガミゾドロムシ; F, ゴトウミゾドロムシ; G, アカモンミゾドロムシ; H, キスジミゾドロムシ.

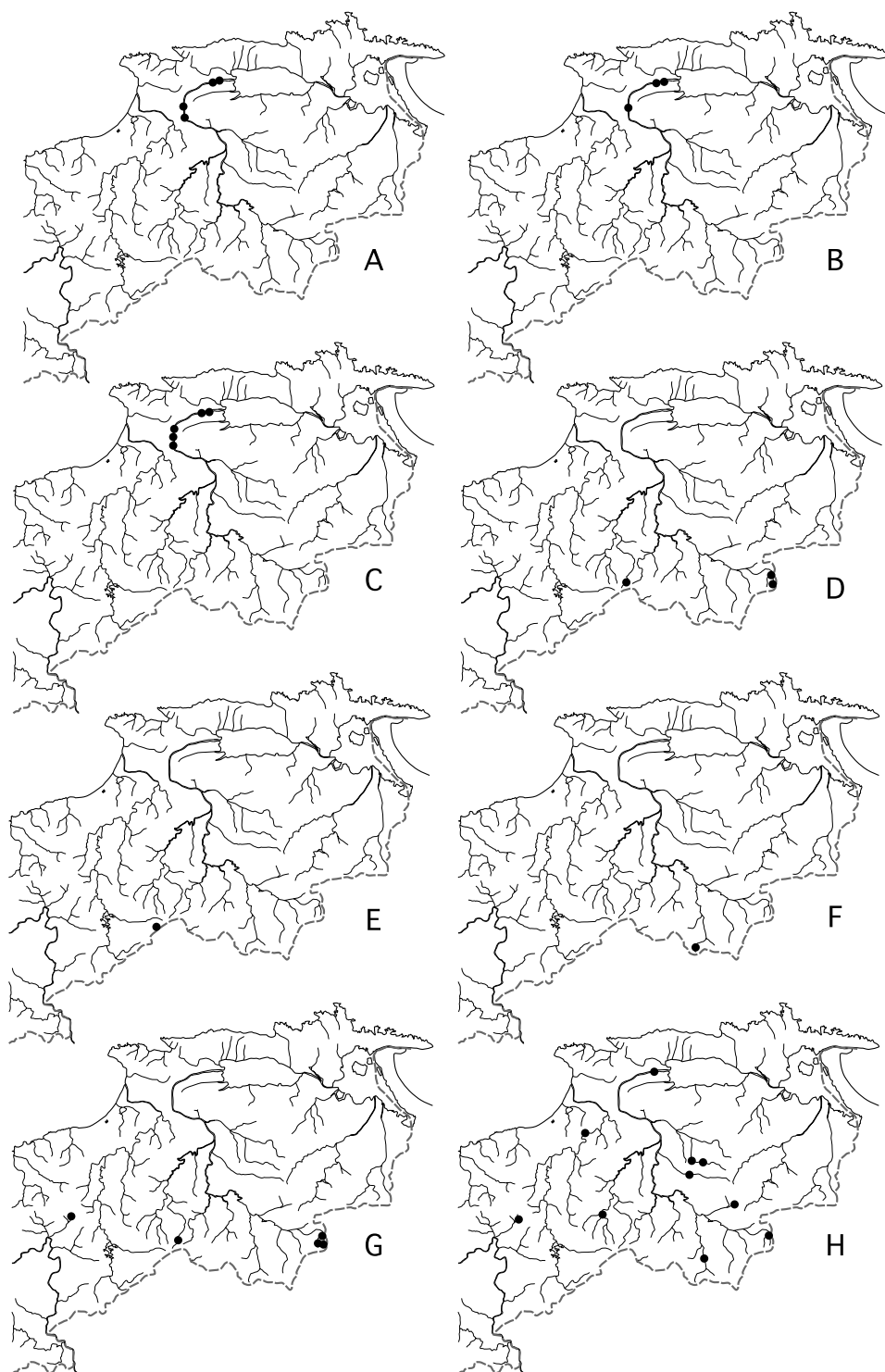


図 20 島根県東部におけるヒメドロムシ類の分布図 (2)

A, ヨコミゾドロムシ; B, ホソヨコミゾドロムシ; C, アヤスジミゾドロムシ; D, クロサワドロムシ; E, ハガマルヒメドロムシ; F, スネアカヒメドロムシ近似種; G, セアカドロムシ; H, ツヤヒメドロムシ.

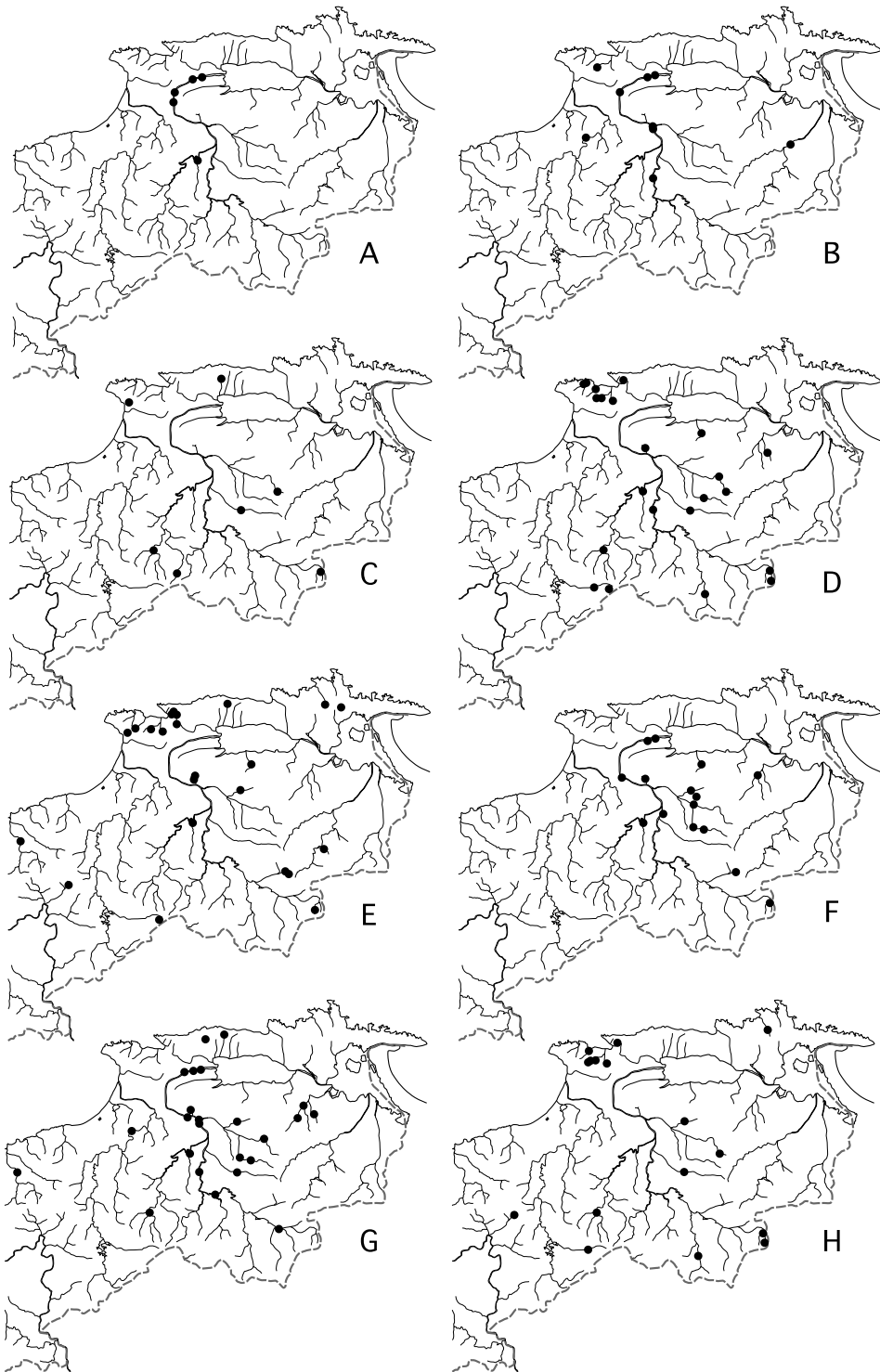


図 21 島根県東部におけるヒメドロムシ類の分布図 (3)

A, ケスジドロムシ; B, キベリナガアシドロムシ; C, ツヤナガアシドロムシ; D, ホソヒメツヤドロムシ; E, マルヒメツヤドロムシ; F, ヒメツヤドロムシ; G, アワツヤドロムシ; H, ミゾツヤドロムシ.

種名 / 季節	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT
アワツヤドロムシ <i>Zaitzevia awana</i>					
ヨコミゾドロムシ <i>Leptelmis gracilis</i>					
ケスジドロムシ <i>Pseudamophilus japonicus</i>					
ミヤモトアシナガミゾドロムシ <i>Stenelmis miyamotoi</i>					
キベリナガアシドロムシ <i>Grouvellinus marginatus</i>					
ホソヨコミゾドロムシ <i>Leptelmis parallela</i>					
キスジミゾドロムシ <i>Ordobrevia foveicollis</i>					
アシナガミゾドロムシ <i>Stenelmis vulgaris</i>					
イブシアシナガドロムシ <i>Stenelmis nipponica</i>					
アヤスジミゾドロムシ <i>Graphelmis shirahatai</i>					

図 22 斐伊川下流域におけるヒメドロムシ科成虫の発生時期。ミヤモトアシナガミゾドロムシは 9 月下旬にはほとんど見られなくなったが、2006 年 10 月 14 日に 1 頭が斐伊川本流で採集された。

3 個体、ヒメツヤドロムシ 1 個体であった。

成虫の出現時期（図 22）を検討すると、アワツヤドロムシとヨコミゾドロムシは 6 月上旬から 10 月中旬まで長い期間に渡って出現する。6 月の中旬には、ケスジドロムシ、ミヤモトアシナガミゾドロムシ、キベリナガアシドロムシ、ホソヨコミゾドロムシが出現するが、ケスジドロムシは 8 月の下旬には成虫がみられなくなる。6 月下旬にはキスジミゾドロムシ、アシナガミゾドロムシ、イブシアシナガドロムシが出現する。キスジミゾドロムシは採集個体数が少なく、情報が不足しているが、1 カ月ほどで姿を消してしまう。ただし、斐伊川の中流域では、8 月の下旬にも採集している。もっとも出現が遅いのがアヤスジミゾドロムシで、7 月中旬から 9 月中旬まで成虫が確認されている（Hayashi, 2007）。多くの種は、9 月中旬までは 8 月とほとんど同じような状況で生息を確認できるが、9 月下旬になると急に種数と個体数が減少し、10 月にはアワツヤドロムシやヨコミゾドロムシなどが少数得られるだけとなる。減少の原因が季節変化や寿命による死滅なのか、越冬状態に入るのかは不明な点が多い。ただし、シーズンの最初に出現するこれらの種のほとんどの個体は、ヨコミゾドロムシを除いて、付属肢の欠如や泥状物

質に覆われたものは観察されなかった。

ミヤモトアシナガミゾドロムシとアシナガミゾドロムシは流木だけでなく、ヨシの根際からも多くの個体が得られた。その一方、アヤスジミゾドロムシとケスジドロムシの多くの個体は流木などの木質物から得られた。ヨコミゾドロムシとホソヨコミゾドロムシも流木にすることが多かった。河川の中流域に多く、主に円礫の多い瀬に生息しているアワツヤドロムシとイブシアシナガドロムシも主に流木から採集された。このことから、斐伊川の下流域に生息するヒメドロムシ類の多くは餌資源や隠れ場所として流木を利用しているものとみられる。とりわけ、全国的に近年の記録がほとんどないアヤスジミゾドロムシが非常に多く生息していることは特筆すべき事項である。流木の多くは河畔林として生えているヤナギ類に由来するものであり、斐伊川下流域の生態系を考える上で、河畔林の価値は非常に高いと言える。

ヒラタドロムシ科幼虫の同定

ヒラタドロムシ科の幼虫は扁平な独特の形態を持つことと、河川に生息する代表的な水生甲虫であることにより、梶田 (1935) や御勢 (1955, 1957), Lee and Sato (1996), Lee *et al.* (1997,

2001, 2003) によって古くから研究が行われてきた。日本産の属については、佐藤・吉富 (2005) の検索により識別が可能である。しかし、種レベルの同定については一部幼虫が確認されていない種がいること、図鑑類に示されている図が各記載論文からの転載であることから、各種の特徴（特に模様）を比較するのが困難である。成虫では、少なくとも本州に生息する種はほぼ解明されているものと考えられる。そこで、島根県内で採集した幼虫を液浸状態で写真撮影して比較を行い、対応する成虫を検討してみた。

ヒラタドロムシ属 *Mataeopsephus* は、腹部側葉片がマルヒラタドロムシ属よりも1枚少なく、7枚である。県内ではヒラタドロムシ *M. japonicus* (図 23A, F) とヒメヒラタドロムシ *M. maculatus* (図 23B, G) の幼虫を確認した。本属は、ヒラタドロムシの腹部の鰭が6対であるのに対し、ヒメヒラタドロムシは5対である (Lee *et al.*, 2003)。背面でも胸部側葉片にある縦筋模様の形 (図 23F, G) や腹部背板末端節の形状、縁の毛の長さに違いが見られた。すなわち、ヒラタドロムシと比較してヒメヒラタドロムシの幼虫は、胸部側葉片にある縦筋模様の形が複雑に分岐し、腹部背板末端節の形状がやや縦に長く、縁の毛がマルヒラタドロムシ属と同様に均一である。液浸状態の標本では、ヒメヒラタドロムシの幼虫はやや縦長に見えることが多かった (図 23B)。生息環境でも両者の違いは明瞭であり、島根半島の溪流ではヒメヒラタドロムシが、斐伊川の中流～下流域ではヒラタドロムシが確認された (一部、未公表データによる)。従って、ヒラタドロムシ *M. japonicus* の幼虫は県内の各河川から報告されているが、上流部で記録された本属の幼虫はヒメヒラタドロムシの誤同定である可能性が高い。

マルヒラタドロムシ属 *Eubrianax* は、腹部側葉片がヒラタドロムシ属よりも1枚多い、8枚である。マルヒラタドロムシ *E. ramicornis*、ヒメマルヒラタドロムシ *E. pellucidus*、クシヒゲマルヒラタドロムシ *E. granicollis* の3種の成虫が今回の調査で確認されている。このうち、御勢 (1957) によって *Eubrianax* sp. EA として報告された幼虫はヒメマルヒラタドロムシに同定されている (Lee *et al.*,

表2 ヒラタドロムシ科幼虫の採集記録

分類	採集数	産地	日付
ヒラタドロムシ属 <i>Mataeopsephus</i>			
ヒラタドロムシ <i>M. japonicus japonicus</i> (Matsumura)			
1L	出雲市立久恵峡	神戸川	2006. 6. 3
1L	出雲市島村町島村	斐伊川	2006. 7. 30
1L	出雲市立久恵峡	神戸川	2006. 7. 31
3L	雲南市加茂町三代	斐伊川	2006. 8. 13
1L	松江市八雲町元田	意宇川	2006. 8. 23
1L	斐川町南神立橋	斐伊川	2006. 8. 25
1L	斐川町瑞穂大橋	斐伊川 (本流)	2006. 9. 7
1L	雲南市三刀屋町粟谷	三刀屋川	2006.10.31
6L	雲南市木次町西日登魚道	斐伊川	2006.11. 2
ヒメヒラタドロムシ <i>M. maculatus</i> Nomura			
1L	出雲市別所町鰐淵寺	鰐淵寺川	2006.10.10
マルヒラタドロムシ属 <i>Eubrianax</i>			
ヒメマルヒラタドロムシ <i>E. pellucidus</i> Lewis			
1L	奥出雲町船通山登山口	赤川	2006. 7. 16
1L	奥出雲町船通山登山口	赤川	2006. 9. 8
1L	飯南町大万木山門坂		2006.10. 3
2L	奥出雲町船通山登山口	斐伊川	2006.11. 3
マルヒラタドロムシ <i>E. ramicornis</i> Kiesenwetter			
1L	雲南市木次町ふるさと尺の内公園		2006. 8. 26
3L	雲南市木次町ふるさと尺の内公園		2006. 9. 9
10L	雲南市木次町ふるさと尺の内公園		2006.10.26
20L	雲南市木次町ふるさと尺の内公園		2006.10.28
マルヒラタドロムシ属未定種 <i>Eubrianax</i> sp. indet.			
10L	雲南市木次町西日登魚道	斐伊川	2006.11.2
チビヒラタドロムシ属 <i>Malacopsephenoides</i>			
マダチビヒラタドロムシ <i>M. japonicus</i> (Masuda)			
13L	雲南市三刀屋町粟谷	三刀屋川	2006.10.31
1L	雲南市木次町西日登魚道	斐伊川	2006.11. 2
マルヒゲナガハナノミ属 <i>Schinostethus</i>			
マルヒゲナガハナノミ <i>S. brevis</i> (Lewis)			
1L	出雲市別所町鰐淵寺		2006. 5. 21
2L	出雲市河下町河下 (滝の壁面)		2006. 6. 18
5L	松江市島根町	澄水川 御手洗滝	2006. 6. 19
16L	出雲市河下町河下 (滝の壁面)		2006.10.10
ヒゲナガヒラタドロムシ属 <i>Nipponeubria</i>			
ヒゲナガヒラタドロムシ <i>N. yoshitomi</i> Lee et M. Sato			
1L	松江市島根町	澄水川 御手洗滝	2006.2. 19
13L	奥出雲町船通山登山口	斐伊川	2006.11.3
5L	松江市島根町	澄水川 御手洗滝	2006.11.4
チビマルヒゲナガハナノミ属 <i>Macroebria</i>			
チビマルヒゲナガハナノミ <i>M. lewisi</i> Nakane			
3L	安来市広瀬町布部ダムの沢		2006. 2. 25
1L	飯南町大万木山門坂		2006. 5. 15
2L	雲南市大東町新庄	山尾川	2006. 9. 22
ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ <i>M. similis</i> Lee, Yang et Sato			
7L	雲南市木次町ふるさと尺の内公園		2006.10.28
チビヒゲナガハナノミ属 <i>Ectopria</i>			
チビヒゲナガハナノミ <i>E. opaca opaca</i> (Kiesenwetter)			
1L	松江市島根町	澄水川	2006. 2. 19
1L	雲南市大東町南村	赤川	2006. 9. 22

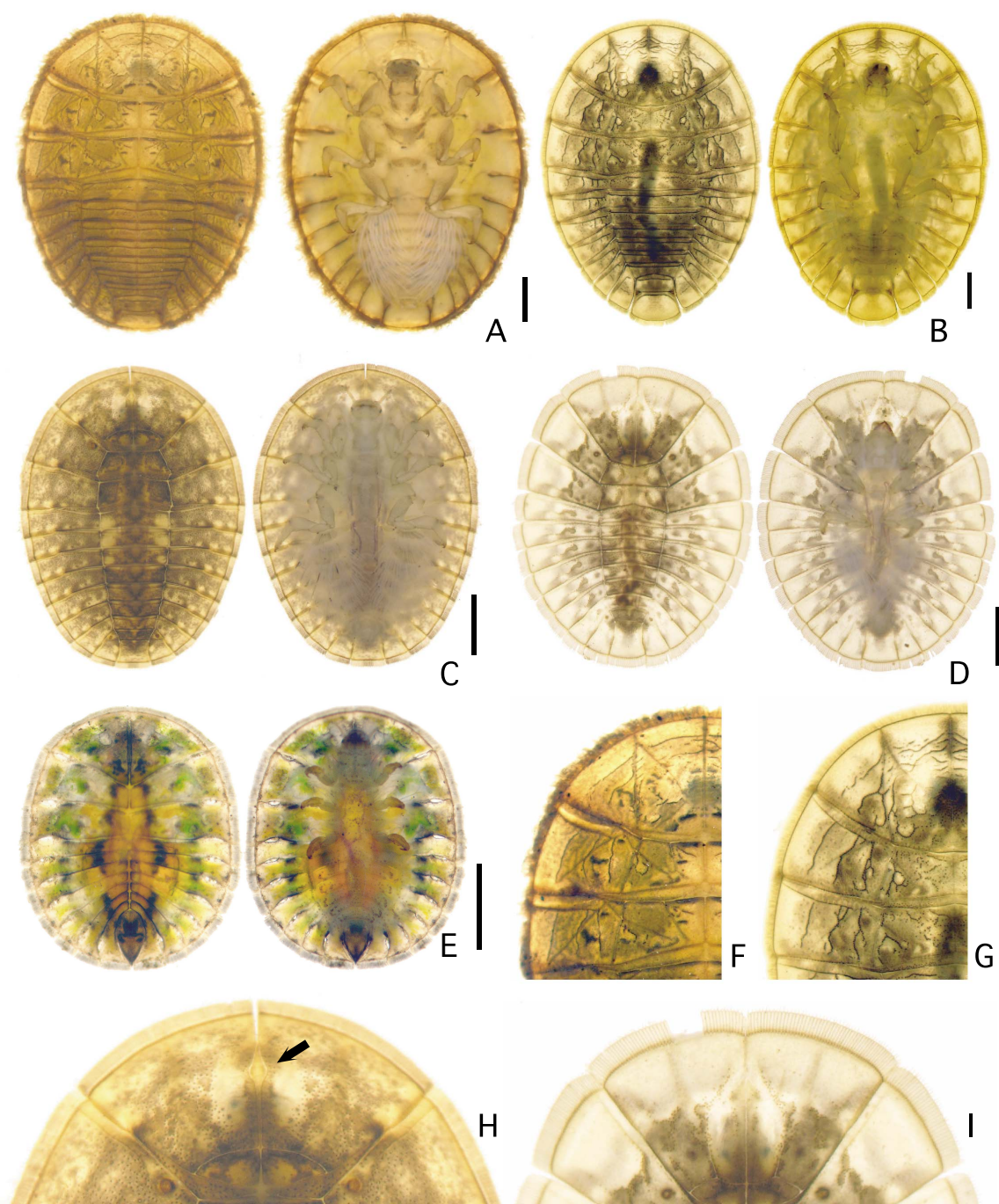


図 23 島根県産ヒラタドロムシ科の幼虫 (1)

A, ヒラタドロムシ (斐伊川) ; B, ヒメヒラタドロムシ (唐川川) ; C, マルヒラタドロムシ (尺の内) ; D, ヒメマルヒラタドロムシ (船通山) ; E, マスダチビヒラタドロムシ (三刀屋川) ; F, ヒラタドロムシ胸部拡大 ; G, ヒメヒラタドロムシ胸部拡大 ; H, マルヒラタドロムシ前胸拡大 (矢印は菱形の板を示す) ; I, ヒメマルヒラタドロムシ前胸拡大。スケールはすべて1mm。

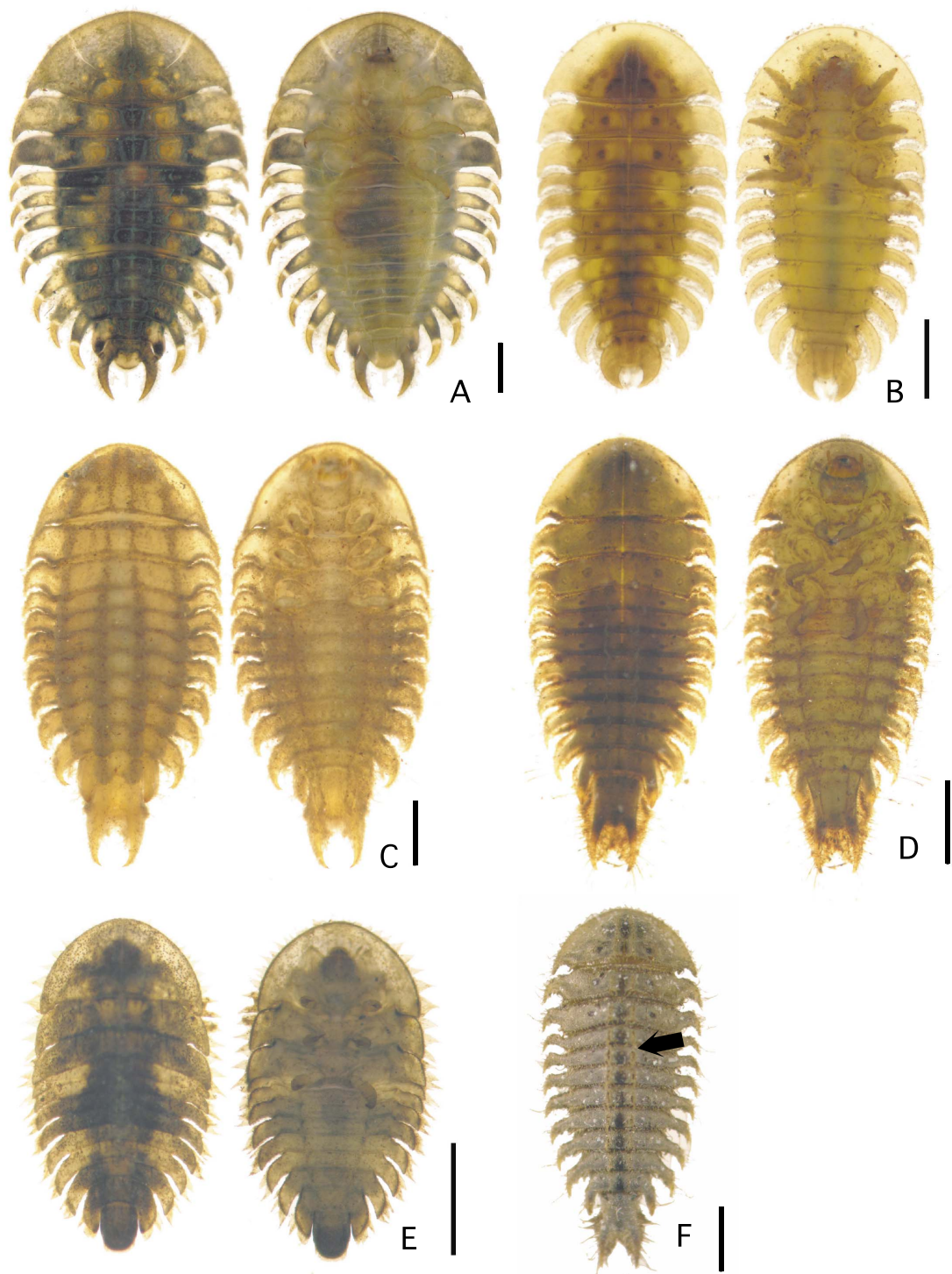


図 24 島根県産ヒラタドロムシ科の幼虫 (2)

A, マルヒゲナガハナノミ (河下); B, ヒゲナガヒラタドロムシ (御手洗滝); C, チビマルヒゲナガハナノミ (大東); D, ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ (尺の内); E, チビヒゲナガハナノミ (大東); F, ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ (乾燥標本: 矢印は背面の隆起条を示す)。スケールはすべて 1mm。

2001). この幼虫は前胸側葉片の縫合線上に縦長で菱形の板 (図 23H) が無い (図 23I) ことが特徴である (御勢, 1957). 今回の調査では, 船通山で成虫・幼虫共に採集された (図 23D). 一方, 残りの 2 種の区別については, 現在のところ不明な点が多い. 雲南市木次町のふるさと尺の内公園では, 人工の小川にマルヒラタドロムシの成虫が多数発生することが確認されており, この小川に多数生息する本属の幼虫 (図 23C) も本種であることは間違いない. マルヒラタドロムシの幼虫は斑点の多い模様があるが, 色の濃淡にはかなり個体変異がみられた. クシヒゲマルヒラタドロムシ幼虫の特徴については, 今後の研究で明らかにしたい.

チビヒラタドロムシ属 *Malacopsephenoides* は, 本土にはマスダチビヒラタドロムシ *M. japonicus* 1 種のみが分布している. 幼虫は他種に比べてかなり小さく探しにくい, 三刀屋川と斐伊川中流で幼虫を確認した. 幼虫そのものは原記載論文 (梶田, 1935) で詳細に記載されている. 肉眼での観察では, 鮮やかな色彩と三角形の尾部がよく目立ち, 他属の若齢幼虫との区別は容易である (図 23E).

マルヒゲナガハナノミ属 *Schinostethus* は, 本土にはマルヒゲナガハナノミ *S. brevis* 1 種のみが分布している. 本種の幼虫は, 御勢 (1957) により *Helichus* sp. HC として記載されている. 今回の調査では, いずれも岩壁に水が滴り, 常に濡れている場所を確認された. 本属は, 側葉片が細長くカーブしながら突出する点の特徴である (図 24A).

ヒゲナガヒラタドロムシ属 *Nipponeubria* は Lee and Sato (1996) によって愛知県面ノ木峠から記載された新属である. 模式種であるヒゲナガヒラタドロムシ *N. yoshitomii* が愛知県のみから報告されている (Lee and Sato, 1996; 吉富, 1998). 今回, 松江市島根町澄水川の上流域と船通山の斐伊川源流において, 小さな沢の水たまりに堆積した落ち葉や石の側面 (図 7) から, 本属の幼虫を発見することができた (図 24B). この幼虫は原記載の全体図と模様も含めてよく一致し, 幼虫ではあるもののヒゲナガヒラタドロムシであることはほぼ間違いないと考えている. 本種は尾部の形状 (三日月型) により, 他の属とは容易に区別できる.

チビマルヒゲナガハナノミ属 *Macroebria* は, 本土にチビマルヒゲナガハナノミ *M. lewisi* とホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ *M. similis* の 2 種がいる. チビマルヒゲナガハナノミの幼虫は Lee *et al.* (1997) によって詳細に記載されているほか, 御勢 (1955) によって *Helichus* sp. HC として報告されている. 本属の幼虫は背面に隆起条があり, 尾端が鋭く後方へ突出することが特徴である (Lee *et al.*, 1997; 佐藤・吉富, 2005). ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミの幼虫はこれまで未知であったが, 今回の調査でふるさと尺の内公園で発見することができた (図 9; 図 24D). 本土産のチビマルヒゲナガハナノミ属 2 種の成虫は互によく似ており, 交尾器を検討しないと識別は困難である. しかし, 幼虫での識別は容易であり, チビマルヒゲナガハナノミの隆起条が 4 本あるのに対し (図 24C), ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミには 2 本しかなかった (図 24F: 液浸状態では観察しにくい). また, 生息環境も大きく異なり, 前者の幼虫が溪流の流木から見つかるのに対し, 後者の幼虫は泥深い湿地 (図 10) からヒゲナガハナノミ (ナガハナノミ科) の幼虫と共に発見された. 日本産ヒラタドロムシ科の幼虫は, そのほとんどが流水やその周辺 (滝や沢の水たまり) に生息するのに対して, ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミの幼虫が湿地というまったく異なる環境に生息することは非常に興味深い.

チビヒゲナガハナノミ属 *Ectopria* は, 本土にはチビヒゲナガハナノミ *E. opaca opaca* 1 種のみが分布している. 本種の幼虫は鳥潟 (1953) が最初に報告し, 御勢 (1955) が *Helichus* sp. HB として記載している. また, Lee and Sato (1996) により再記載も行われている. 本属の幼虫は腹部末端節が四角形で切れ込みがないことが特徴である. 今回の調査では雲南市大東町の赤川や澄水川で幼虫を確認した (図 24E).

謝 辞

ヒラタドロムシ科幼虫の同定にあたり, 吉富博之博士からは文献についてご教示をいただき, また日頃より水生甲虫類全般についてさまざまな情報をいただいた. 野外調査では吉岡誠人氏, 藤原

淳一氏にご協力いただいた。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

文 献

- 秋山美文 (1995) チャイロチビゲンゴロウを島根県で採集. 昆虫と自然, **30**(8): 29.
- 秋山美文・坂本 充 (2000) 広島県の水生肉食甲虫類 (コウチュウ目, オサムシ上科). 比和科博研報, (39): 5-33.
- 御勢久右衛門 (1955) 日本産ドロムシ科幼虫の研究. 新昆虫, **8**(12): 9-15.
- 御勢久右衛門 (1957) *Eubrianax* 属幼虫 3 種について. 関西自然科学, (10): 20-23.
- 林 成多 (2005) 斐伊川河川敷でカンムリセシジゲンゴロウを採集. すかしば, (53): 37.
- 林 成多 (2006a) 島根県出雲市におけるツヤヒラタガムシの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 56.
- 林 成多 (2006b) 三刀屋町峯寺で採集した甲虫類. すかしば, (54): 62.
- 林 成多 (2006c) 飯南町赤名のツヤネクイハムシとババスゲヒメゾウムシ. すかしば, (54): 65.
- 林 成多 (2006d) 雲南市木次町ふるさと尺の内公園の水生昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 113-119.
- 林 成多 (2006e) シジミガムシ属について. すかしば, (54): 67-69.
- Hayashi, M. (2007) Ecological notes on the adult stage of *Graphelmis shirahatai* (Nomura) (Coleoptera: Elmidae). *Elytra, Tokyo*. (in press)
- 林 成多・藤原淳一・島田 孝・米田友祐・六車恭子・成田行弘 (2006) 隠岐諸島の昆虫相に関する一資料-2005 年 8 月 7-10 日に島後で採集・観察した昆虫類の目録. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 245-263.
- 林 成多・門脇久志 (2007) 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (10). 印刷中.
- 林 成多・中野浩史 (2007) 島根県松江市澄水川の水生昆虫. ホシザキグリーン財団研究報告, (10). 印刷中.
- 林 成多・島田 孝 (2006) 島根県東部および隠岐諸島のヒメドロムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 127-143.
- 星川和夫・小倉和久 (1998) 松江市近郊の植生タイプの異なるため池における水生昆虫群集. ホシザキグリーン財団研究報告, (2): 235-253.
- Jeng, M., M. A. Jäch, M. Sato and P.-S. Yang (2006) On the taxonomy of Psephenoidinae: revision of *Afropsephenoides*, and description of two new species and one new, genus (Coleoptera: Psephenidae). *Insect Systematics & Evolution*, **37**: 105-119.
- 門脇久志 (1983) 隠岐島の甲虫類目録. すかしば, (20): 3-25.
- 上田常一 (1961) 松江市堀川の生物. 山陰文化研究所紀要, (1): 1-25.
- 環境省 (2006) 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 5 昆虫類」 246 p. 財団法人自然環境研究センター.
- 河上康子・林 成多 (2007) 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島. ホシザキグリーン財団研究報告, (10). 印刷中.
- 川野敬介 (2005) 島根県東部の止水性水生昆虫の分布記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (8): 77-97.
- 川野敬介・中野浩史・林 成多・山内健生 (2006) 出雲市平田地域のため池生物調査 (2) 止水性水生昆虫類の生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 13-37.
- 建設省中国地方建設局出雲河川事務所 (2000) 「斐伊川水系の底生動物」 170p.
- 小早川誠 (2004) 島根県内にて希少ゲンゴロウを採集. すかしば, (52): 8.
- Lee, C.-F. and M. Sato (1996) *Nipponeubria yoshitomii* Lee and Sato, a new species in a new genus of Eubrinae from Japan, with notes on the immature stages and description of the larva of *Ectopria opaca* (Kiesenwitter) (Coleoptera: Psephenidae). *Coleopt. Bull.*, **50**(2): 122-134.
- Lee, C.-F., P.-S., Yang and M. Sato (1997) The Easat Asian species of the genus *Macroebria* Pic (Coleoptera, Psephenidae, Eubrinae). *Jpn.*

- J. Syst. Ent.*, **3**: 129–160.
- Lee, C.-F., P.-S., Yang and M. Sato (2001) Phylogeny of the genera of Eubrianacinae and description of additional members of *Eubrianax* (Coleoptera: Psephenidae). *Ann. Ent. Soc. Amer.*, **94**: 347–362.
- Lee, C.-F., M. A. Jäch and M. Sato (2003) Psephenidae: revision of Mataeopsephus Waterhouse. *Water Beetles of China*, **3**: 481–517.
- 丸山宗利 (2006) 効果的な簡易型屋根付き FIT とその作り方. 甲虫ニュース, (153): 20–21.
- 榊田忠雄 (1935) どもむし科の一新種. 関西昆虫学会会報, (6): 9–10, pl. 2.
- 松田 賢・中村慎吾 (1999) 島根県高津川の昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (3): 57–119.
- 森 正人・北山 昭 (2002) 「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」 231p. 文一総合出版.
- 中村慎吾・松田 賢 (2005) 島根県高津川の昆虫類, 2000 年の調査結果. ホシザキグリーン財団研究報告, (8): 99–172.
- 中根猛彦 (1985) 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆蟲, **32**(2): 61–67.
- 野尻湖昆虫グループ (1985) 「アトラス日本のネクイハムシ」 182p. 野尻湖昆虫グループ, 大阪.
- 尾原和夫 (2003) 島根県における水生肉食甲虫類の記録. すかしば, (51): 9–13.
- 緒方 健・中島 淳 (2006) 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227–243.
- 佐藤正孝 (1981) 日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, (53): 1–4.
- 佐藤正孝 (1985) ナガドロムシ科. 「原色日本甲虫図鑑 II」: 431, pl. 78. 保育社.
- 佐藤正孝・吉富博之 (2005) コウチュウ目 (鞘翅目) Coleoptera. 川合禎次・谷田一三 (編) 「日本産水生昆虫 科・属・種への検索」: 591–658. 東海大学出版会, 東京.
- 島田 孝・尾原和夫・大浜祥治 (2005) 隠岐の水生肉食甲虫類. すかしば, (53): 41–48.
- 島根県 (2004) 「改訂しまねレッドデータブックー島根県の絶滅のおそれのある野生動植物」 415 p. 島根県景観自然課.
- 山田 学 (2003) 島根県西部地域における大型水生甲虫の採集記録. すかしば, (51): 37–48.
- 淀江賢一郎・星川和夫・門脇久志・尾原和夫・三島秀夫 (2000) 松江市円木池とその周辺の昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (4): 161–192.
- 淀江賢一郎・星川和夫・斉藤光男・門脇久志・尾原和夫 (1998) 島根県斐伊川水系の昆虫類 (1997 年の調査結果). ホシザキグリーン財団研究報告, (2): 7–86.
- 吉富博之 (1997) ヒゲナガヒラタドロムシ (新称) の採集記録. 甲虫ニュース, (122): 10.
- Yoshitomi, H. (2005) Systematic revision of the family Scirtidae of Japan, with phylogeny, morphology and bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea). *Monographic Series*, (3): 1–212. Japanese Society of Systematic Entomology.
- Yoshitomi, H. and M. Sato (2005) A revision of the Japanese species of the genus *Dryopomorphus* (Coleoptera, Elmidae). *Elytra, Tokyo*, **33**(2): 455–473.

島根県産水生甲虫類仮目録 (2006)

本目録は, 島根県で記録されている種数を確認するためのものであり, 原則として, 主要な出典を一つだけあげた. 筆者が実際に標本を確認している種に*印を, 幼虫のみを確認した種に**印を付けた. 記録された種は 17 科 141 種である.

コガシラミズムシ科 Halipidae (6 種)

コガシラミズムシ* *Peltodytes intermedius* (Sharp) (川野, 2005)

- クビボソコガシラミズムシ* *Haliplus japonicus* Sharp (川野, 2005)
ヒメコガシラミズムシ* *Haliplus ovalis* Sharp (川野, 2005)
マダラコガシラミズムシ* *Haliplus sharpi* Wehncke (川野, 2005)
クロホシコガシラミズムシ* *Haliplus basinotatus* Zimmermann (島田ほか, 2005)
キイロコガシラミズムシ* *Haliplus eximius* Clark (川野, 2005)

コツブゲンゴロウ科 Noteridae (2 種)

- コツブゲンゴロウ* *Noterus japonicus* Sharp (森・北山, 2002)
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus politus* (Sharp) (上田, 1961)

ゲンゴロウ科 Dytiscidae (35 種)

- キボシケシゲンゴロウ* *Allopachria flavomaculatus* (Kamiya) (森・北山, 2002)
ヒメケシゲンゴロウ *Hyphydrus laeviventris laeviventris* Sharp (森・北山, 2002)
ケシゲンゴロウ* *Hyphydrus japonicus* Sharp (森・北山, 2002)
マルケシゲンゴロウ* *Hydrovatus subtilis* Sharp (川野, 2005)
コマルケシゲンゴロウ* *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky (川野, 2005)
チャイロチビゲンゴロウ* *Liodytes megacephalus* (Gschwendtner) (秋山, 1995)
チビゲンゴロウ* *Hydroglyphus japonicus* (Sharp) (森・北山, 2002)
マルチビゲンゴロウ* *Leiodytes frontalis* (Sharp) (川野, 2005)
ツブゲンゴロウ* *Laccophilus difficilis* Sharp (森・北山, 2002)
コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis* Sharp (川野, 2005)
ルイスツブゲンゴロウ* *Laccophilus lewisius* Sharp (川野, 2005)
セスジゲンゴロウ *Copelatus japonicus* Sharp (淀江ほか, 1998)^{註1)}
ホソセスジゲンゴロウ* *Copelatus weymarni* Balfour-Browne (森・北山, 2002)
カンムリセスジゲンゴロウ* *Copelatus kammuriensis* Tamu et Tsukamoto (秋山・坂本, 2000)
モンキマメゲンゴロウ* *Platambus pictipennis* (Sharp) (尾原, 2003)
キベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus* Sharp (淀江ほか, 1998)
サワダマメゲンゴロウ* *Platambus sawadai* (Kamiya) (森・北山, 2002)
ホソクロマメゲンゴロウ* *Platambus oputatus* (Sharp) (森・北山, 2002)
クロズマメゲンゴロウ* *Agabus conspicuus* Sharp (森・北山, 2002)
チャイロマメゲンゴロウ* *Agabus regimbarti* Zaizev (淀江ほか, 2000)
マメゲンゴロウ* *Agabus japonicus* Sharp (森・北山, 2002)
キベリクロヒメゲンゴロウ* *Ilybius apicalis* Sharp (森・北山, 2002)
ヒメゲンゴロウ* *Rhantus suturalis* (Macleay) (森・北山, 2002)
オオヒメゲンゴロウ *Rhantus erraticus* Sharp (建設省, 2000)
ハイイロゲンゴロウ* *Eretes sticticus* (Linnaeus) (川野, 2005)
シマゲンゴロウ* *Hydaticus bowringii* Clark (森・北山, 2002)
スジゲンゴロウ *Hydaticus satoi* Wewalka (門脇, 1983)
コシマゲンゴロウ* *Hydaticus grammicus* (Germer) (森・北山, 2002)
ウスイロシマゲンゴロウ* *Hydaticus rhantoides* Sharp (川野, 2005)
マルガタゲンゴロウ* *Graphoderus adamsii* (Clark) (森・北山, 2002)
クロゲンゴロウ* *Cybister brevis* Aube (森・北山, 2002)

コガタノゲンゴロウ* *Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius) (島田ほか, 2005)

マルコガタノゲンゴロウ* *Cybister lewisianus* Sharp (小早川, 2004)

ゲンゴロウ* *Cybister japonicus* Sharp (森・北山, 2002)

シャープゲンゴロウモドキ* *Dytiscus sharpi* Wehncke (森・北山, 2002)

^{注1)} セスジゲンゴロウの記録については, ホソセスジゲンゴロウまたはカンムリセスジゲンゴロウの誤同定の可能性がある。

ミズスマシ科 Gyrinidae (6 種)

オオミズスマシ* *Dineutus orientalis* (Modeer) (川野, 2005)

オナガミズスマシ* *Orectochilus regimbarti regimbarti* Sharp (島田ほか, 2005)

コオナガミズムシ *Orectochilus punctipennis* Sharp (中村・松田, 2005)

ミズスマシ* *Gyrinus japonicus* Sharp (川野, 2005)

コミズスマシ *Gyrinus curtus* Motschulsky (門脇, 1983)

ヒメミズスマシ *Gyrinus gestroi* Regimbart (川野, 2005)

ツブミズムシ科 Torridincolidae (1 種)

クロサワツブミズムシ* *Satonius kurosawai* (M. Sato) (本報告)

ホソガムシ科 Hydrochidae (2 種)

チュウブホソガムシ* *Hydrochus chubu* Balfour-Browne (本報告)

ヤマトホソガムシ* *Hydrochus japonicus* Sharp (川野, 2005)

ガムシ科 Hydorophilidae (20 種)

セマルガムシ* *Coelostma stultum* (Walker) (川野, 2005)

ヒメセマルガムシ* *Coelostma orbiculare* (Fabricius) (林, 2006d)

マルガムシ* *Hydrocassis lacustris* (Sharp) (川野, 2005)

ツヤヒラタガムシ* *Agraphydrus narusei* (M. Sato) (林, 2006a)

コモンシジミガムシ* *Laccobius oscillans* Sharp (林, 2006e)

ヒメシジミガムシ* *Laccobius fragilis* Nakane (林, 2006e)

ミユキシジミガムシ* *Laccobius inopinus* Gentili ^{注2)}

ルイスヒラタガムシ* *Helochares pallens* (Macleay) (本報告)

スジヒラタガムシ* *Helochares nipponicus* Hebauer (川野, 2005)

キイロヒラタガムシ* *Enochrus japonicus* (Sharp) (川野, 2005)

チビヒラタガムシ *Enochrus esuriens* (Walker) (本報告)

キバリヒラタガムシ* *Enochrus japonicus* (Sharp) (川野, 2005)

ガムシ* *Hydrophilus acuminatus* (Motschulsky) (川野, 2005)

ヒメガムシ* *Sternolophus rufipes* (Fabricius) (川野, 2005)

コガムシ* *Hydrochara affinis* (Sharp) (川野, 2005)

タマガムシ* *Amphiops mater* Sharp (川野, 2005)

マメガムシ* *Regimbartia attenuata* (Fabricius) (川野, 2005)

ゴマフガムシ* *Berosus punctipennis* (Harold) (川野, 2005)

ヤマトゴマフガムシ* *Berosus japonicus* Sharp (川野, 2005)

トゲバゴマフガムシ *Berosus lewisius* Sharp (中村・松田, 2005)

^{注2)} 林 (2006e) で報告したシジミガムシは本種の誤りである (上手, 私信).

ダルマガムシ科 Hydraenidae (5 種)

セスジダルマガムシ* *Ochthebius inermis* Sharp (本報告)

ハセガワセスジダルマガムシ* *Ochthebius hasegawai* Nakane et Matsui (本報告)

ホンシュウセスジダルマガムシ* *Ochthebius japonicus* Jäch (本報告)

クロコブセスジダルマガムシ* *Neochthebius granulosus* M. Sato (河上・林, 2007)

ミヤタケダルマガムシ* *Hydraena miyatakei* M. Sato (川野, 2005)

マルハナノミ科 Scirtidae (13 種)

コクロマルハナノミ* *Odeles inornata* (Lewis) (本報告)

クロマルハナノミ* *Odeles wilsoni* (Pic) (本報告)

ヒメキムネマルハナノミ* *Sacodes minima* (Klausnitzer) (本報告)

ケシマルハナノミ* *Hydrocyphon satoi* Yoshitomi (本報告)

トビイロマルハナノミ* *Scirtes japonicus* Kiesenwetter (中村・松田, 2005)

ヒメマルハナノミ* *Scirtes sobrinus* Lewis (本報告)

セダカマルハナノミ* *Prinocyphon ovalis* Kiesenwetter (本報告)

シコクホソチビマルハナノミ* *Cyphon ohbayashii* Yoshitomi (本報告)

アカチャチビマルハナノミ* *Cyphon japonicola* Nakane (本報告)

ウスチャチビマルハナノミ* *Cyphon sasagawai* Yoshitomi et Klausnitzer (本報告)

キイロチビマルハナノミ* *Cyphon fuscomarginatus* Nakane (本報告)

ニッポンチビマルハナノミ* *Cyphon nipponicus* Yoshitomi (本報告)

チャイロチビマルハナノミ* *Cyphon consobrinus* Nyholm (本報告)

ヒラタドロムシ科 Psephenidae (11 種)

ヒラタドロムシ* *Mataeopsephus japonicus japonicus* (Matsumura) (本報告)

ヒメヒラタドロムシ** *Mataeopsephus maculatus* Nomura (本報告)

マルヒラタドロムシ* *Eubrianax ramicornis* Kiesenwetter (本報告)

ヒメマルヒラタドロムシ *Eubrianax pellucidus* Lewis (本報告)

クシヒゲマルヒラタドロムシ* *Eubrianax granicollis* Lewis (本報告)

マスダチビヒラタドロムシ* *Malacopsephenoides japonicus* (Masuda) (本報告)

マルヒゲナガハナノミ** *Schinostethus brevis* (Lewis) (本報告)

ヒゲナガヒラタドロムシ** *Nipponeubria yoshitomii* Lee et M. Sato (本報告)

チビマルヒゲナガハナノミ** *Macroebria lewisi* Nakane (本報告)

ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ* *Macroebria similis* Lee, Yang et Sato (本報告)

チビヒゲナガハナノミ* *Ectopria opaca opaca* (Kiesenwetter) (本報告)

チビドロムシ科 Limnichidae (1 種)

ババチビドロムシ* *Babalimnichus masamii* M. Sato (河上・林, 2007)

ナガドロムシ科 Heteroceridae (2 種)^{注3)}

タテスジナガドロムシ* *Heterocerus fenestratus* Thunberg (中村・松田, 2005)

タマガワナガドロムシ *Heterocerus japonicus* Kono (松田・中村, 1999)

^{注3)} ナガドロムシ類は、体型や体色の変異が非常に大きく種の区別が難しいため、再検討が必要である。

ヒゲナガハナノミ科 Ptilodactylidae (3 種)

エダヒゲナガハナノミ* *Epilichas flabellatus flabellatus* (Kiesenwetter) (本報告)

ヒゲナガハナノミ* *Paralichas pectinatus* (Kiesenwetter) (本報告)

クリイロヒゲナガハナノミ* *Pseudoepilichas niponicus* (Lewis) (本報告)

ドロムシ科 Dryopidae (1 種)

ムナビロツヤドロムシ* *Elmomorphus brevicornis brevicornis* Sharp (林・島田, 2006)

ヒメドロムシ科 Elmidae (25 種)

ハバビドロムシ* *Dryopomorphus extraneus* Hinton (林・島田, 2006)

ヒメババビドロムシ *Dryopomorphus nakanei* Nomura (片岡ほか, 1999)^{注4)}

イブシアシナガドロムシ* *Stenelmis nipponica* Nomura (林・島田, 2006)

アシナガミゾドロムシ* *Stenelmis vulgaris* Nomura (林・島田, 2006)

ミヤモトアシナガミゾドロムシ* *Stenelmis miyamotoi* Nomura et Nakane (林・島田, 2006)

ゴトウミゾドロムシ* *Ordobrevia gotoi* Nomura (林・島田, 2006)

アカモンミゾドロムシ* *Ordobrevia maculata* (Nomura) (林・島田, 2006)

キスジミゾドロムシ* *Ordobrevia foveicollis* (Schonfeldt) (林・島田, 2006)

ヨコミゾドロムシ* *Leptelmis gracilis* Sharp (林・島田, 2006)

ホソヨコミゾドロムシ* *Leptelmis parallela* Nomura (本報告)

アヤスジミゾドロムシ* *Graphelmis shirahatai* (Nomura) (林・島田, 2006)

クロサワドロムシ* *Neorihelmis kurosawai* Nomura (本報告)

ハガマルヒメドロムシ* *Optioservus hagai* Nomura (本報告)

スネアカヒメドロムシ近似種* *Optioservus* sp. (本報告)

セアカヒメドロムシ* *Optioservus maculatus* Nomura (林・島田, 2006)

ツヤヒメドロムシ* *Optioservus nitidus* Nomura (林・島田, 2006)

ケスジドロムシ* *Pseudamophilus japonicus* Nomura (本報告)

キベリナガアシドロムシ* *Grouvellinus marginatus* (Kono) (林・島田, 2006)

ツヤナガアシドロムシ* *Grouvellinus nitidus* Nomura (林・島田, 2006)

ホソヒメツヤドロムシ* *Zaitzeviaria gotoi* (Nomura) (林・島田, 2006)

マルヒメツヤドロムシ* *Zaitzeviaria ovata* (Nomura) (林・島田, 2006)

ヒメツヤドロムシ* *Zaitzeviaria brevis* (Nomura) (林・島田, 2006)

アワツヤドロムシ* *Zaitzevia awana* (Kono) (林・島田, 2006)

ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* Nomura (中村・松田, 2005)^{注4)}

ミゾツヤドロムシ* *Zaitzevia rivalis* Nomura (林・島田, 2006)

^{注4)} 斐伊川水系でのヒメババビドロムシとツヤドロムシの記録については、筆者らのこれまでの調査で再確認されておらず、誤同定の可能性も考えられる。しかし、大山山麓には両種が生息することから、島根県内に分布していることは確実と思われる。

ホタル科 Lampyridae (2 種)

ゲンジボタル* *Luciola cruciata* Motschulsky (松田・中村, 1999)

ヘイケボタル* *Luciola lateralis* Motschulsky (松田・中村, 1999)

ハムシ科 Chrysomelidae (7 種)

アキミズクサハムシ (アキネクイハムシ) *Plateumaris akiensis* Tominaga et Katsura (本報告)

キヌツヤミズクサハムシ (スゲハムシ) *Plateumaris sericea* (Linnaeus) (野尻湖昆虫グループ, 1985)

キンイロネクイハムシ *Donacia japana* Chujo et Goecke (野尻湖昆虫グループ, 1985)

ツヤネクイハムシ *Donacia nitidior* (Nakane) (林, 2006c)

イネネクイハムシ *Donacia provostii* Fairmaire (中村・松田, 2005)

ガガブタネクイハムシ (ネクイハムシ, トゲアシネクイハムシ) *Donacia lenzi* Shonlfeldt (野尻湖昆虫グループ, 1985)